

2026年3月期 第2四半期決算説明資料

クラシル株式会社 | 東証グロース : 299A

2025年10月31日

全体では売上高、Non-GAAP営業利益*ともに堅調に推移

- 第2四半期単体の売上高は前年同期比**42.0%増**、Non-GAAP営業利益は**77.2%増**により、第2四半期累積でも売上高は前年同期比**34.3%増**、Non-GAAP営業利益は**21.9%増**と堅調な業績推移となった。

購買事業はMAU、レシチャレは堅調に推移

- MAUは前Q対比24万増の267万となった。レシチャレは、取扱い案件数は順調に伸びており、サービス名を今後「レシチャレ」に変更予定。また、本年8月より「クラシルリテールネットワーク」の展開を開始し、Yahoo Japan!アプリ及びSmartNewsアプリへの導入を開始。
- オンラインは金融案件における出稿主の方針見直しの影響を受けた。

HR事業に関する位置付けの見直し

- クラシルリワードのユーザー基盤を活用したダイレクトリクルーティングサービス「クラシルジョブ」は、マッチング率が想定を下回ったことからサービス終了を決定。HR領域は依然としてクライアントの重要課題であるため、今後も中長期的な事業展開の可能性を検討していく方針。
- 本事業はPoCフェーズに位置付けており、期初より僅かな売上高の見積り、限定的なコストの範囲内で運営していたため、当初の事業計画に対して特段の修正は不要。

* Non-GAAP営業利益とは買収によるのれん償却費及び無形資産償却費を営業利益に加算した金額（詳細はP45参照）

業績

全社

売上高

40.3億円

YoY +42.0%

QoQ +5.9%

売上総利益

19.0億円

YoY +41.6%

QoQ +4.4%

Non-GAAP 営業利益*

8.4億円

YoY +77.2%

QoQ +6.5%

事業別 ハイライト

メディア

売上高 **19.6**億円

YoY +16.8%

QoQ +4.3%

- 各種施策により、単価及びPV数が想定より堅調に推移し、想定を上回った

購買

売上高 **13.5**億円

YoY +116.7%

QoQ +6.5%

- オフライン（レシチャレ）：案件獲得が順調に進んだ
- オンライン：金融案件の出稿主の方針転換の影響を受けた

その他

売上高 **7.0**億円

YoY +34.1%

QoQ +9.4%

- アクティブライバー数が順調に増加

* Non-GAAP営業利益とは買収によるのれん償却費及び無形資産償却費を営業利益に加算した金額（詳細はP45参照）

通期業績予想に対する進捗状況



2Q累積の売上高及びNon-GAAP営業利益については、通期目標値に対してそれぞれ45.7%、46.5%と順調に推移している状況。

売上高

2026年3月期
2Q累計



通期予想
171.4億円

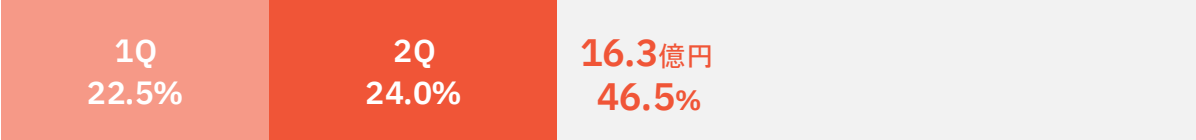
2025年3月期
2Q累計



通期実績
131.0億円

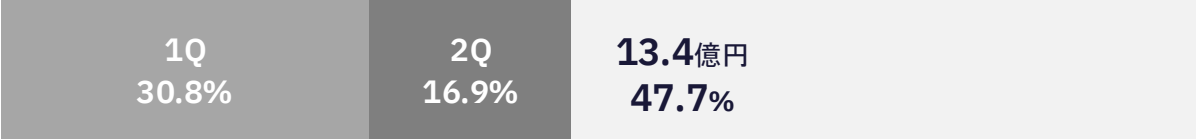
Non-GAAP
営業利益

2026年3月期
2Q累計



業績予想
35.2億円

2025年3月期
2Q累計



通期実績
28.1億円

01	事業概要	・ ・ ・ P.06
02	2026年3月期第2四半期業績	・ ・ ・ P.13
03	購買領域における戦略とアップデート	・ ・ ・ P.23
04	Q&A	・ ・ ・ P.40
05	Appendix	・ ・ ・ P.42

01 事業概要

Our Vision
BE THE SUN

世界に明るく大きなインパクトを与える存在になる

主要サービス

メディア



購買



その他



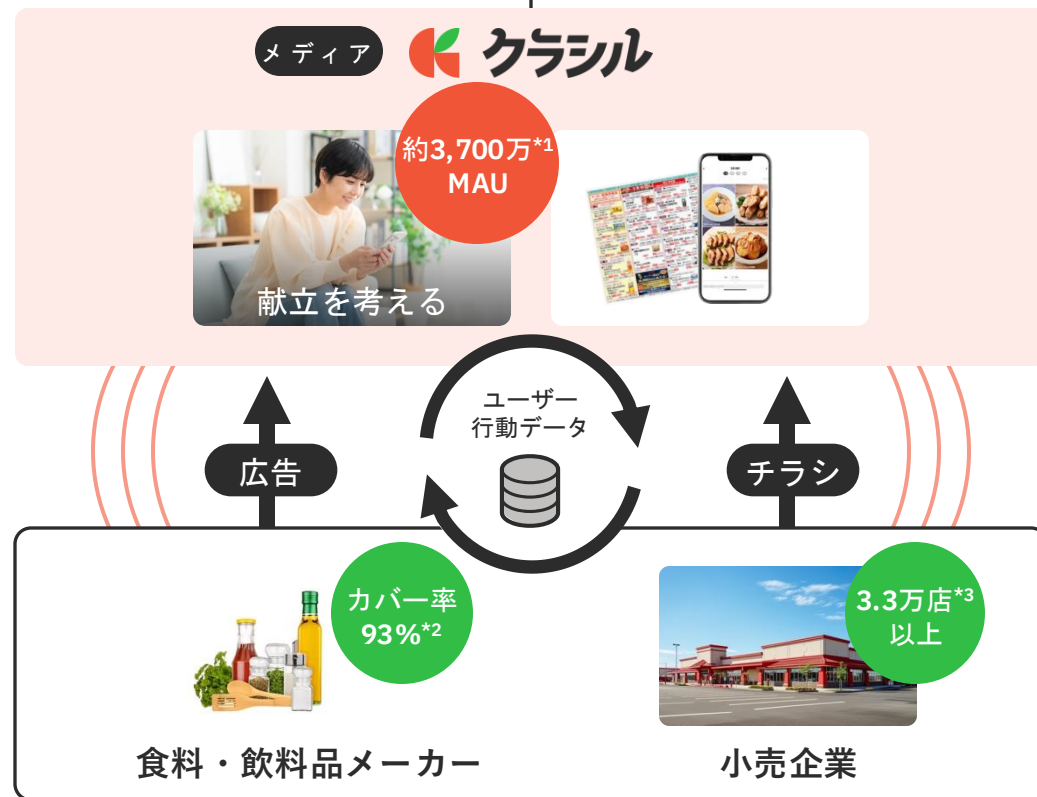
LIVEwith
エンターテインメント

強固な既存アセットを活かした連続的な事業展開

食料・飲料品メーカーや小売企業とのリレーション構築には時間を要するが、当社ではクラシルで培ったリレーションを元に認知広告サービスから販促プロモーションへ事業を進展。

2016年

2022年



クラシルで築いた顧客企業との
強固なリレーションを活かし
クロスセルサービスを実現

販促プロモーション

高い参入障壁

新規参入企業

^{*1} FY26/3 2Qのクラシル及びクラシルリワード関連Web/APP MAU合算値の期間平均（Web MAU：過去30日間にWebにアクセスしたユニークユーザー数の合計。APP MAU：過去30日間にアプリを起動したユニークユーザー数の合計。）なお、クラシルとクラシルリワード及びWebとAPPの重複ユーザーの排除はしていません。^{*2} 日本取引所グループ業種別分類「食料品」に含まれる国内企業の直近年度売上高上位30社のうちこれまで当社と取引（受注）実績が有る企業数（28社）の比率。提出日現在、レシピを使ったタイアップ広告及びレシピチャレにおいて、食品・飲料ナショナルブランド企業を中心とした営業活動を行っております。^{*3} 2025年9月時点のスーパー・ドラッグストア等の全国小売提携店舗数^{*4} FY26/3 2Qのクラシルリワード関連 MAUの合算値の期間平均（過去30日間にWebへのアクセス又はアプリを起動したユニークユーザー数の合計（WebとAPPの重複ユーザーの排除はしていません。））

ユーザーボリューム

MAU*¹

約**3,700**万

うちAPP約**729**万

クラシル国内認知度*²

58.1%

うち女性**76.4**%

SNSフォロワー数*³

約**1,200**万人

ブランド・リテール顧客

食品・飲料

ナショナルブランドカバー率*⁴

93%

全国小売提携店舗数*⁵

約**3.3**万店舗

財務プロフィール

売上高 (FY25/3)

131.0億円

売上高成長率 (FY25/3 YoY)

32.4%

Non-GAAP営業利益率 (FY25/3) *⁶

21.5%

*¹ FY26/3 2Qのクラシル及びクラシルリワード関連Web/APP MAU合算値の期間平均 (Web MAU: 過去30日間にWebにアクセスしたユニークユーザー数の合計。APP MAU: 過去30日間にアプリを起動したユニークユーザー数の合計。) なお、クラシルとクラシルリワード及びWebとAPPの重複ユーザーの排除はしていません。*² 調査委託先: マクロミル。「あなたが知っている料理レシピ動画サイト・アプリ」に対する回答 (調査対象者: 回答者数1,036名のうち20-50歳の男女759名 (男性377名、女性382名) / 調査実施期間: 2024年3月29日-30日 / 調査方法: インターネットリサーチ) *³ 2025年9月時点のFacebook / X / TikTok / Instagram / YouTube / LINE / LINE Newsにおけるクラシル及びクラシルリワードのSNS公式アカウントのフォロワー数単純合計 *⁴ 日本取引所グループ業種別分類「食料品」に含まれる国内企業の直近年度売上高上位30社のうちこれまで当社と取引 (受注) 実績が有る企業数 (28社) の比率。提出日現在、レシピを使ったタイアップ広告及びレシピチャレにおいて、食品・飲料ナショナルブランド企業を中心とした営業活動を行っております。*⁵ 2025年9月時点のスーパー・ドラッグストア等の全国小売提携店舗数 *⁶ 買収によるのれん償却費及び無形資産償却費を営業利益に加算した金額を基に利益率を計算

インフレ状況下で消費者の節約意識が高まるなか、自炊をサポートするクラシルとポイントバックを通じてお得な購買体験を可能とするクラシルリワードの引合いは強い状況。

外食価格の高騰

生活費全般の増加



自炊ニーズの上昇

お得な買い物ニーズの向上



簡単に自炊可能な
レシピの提供



節約レシピの提供

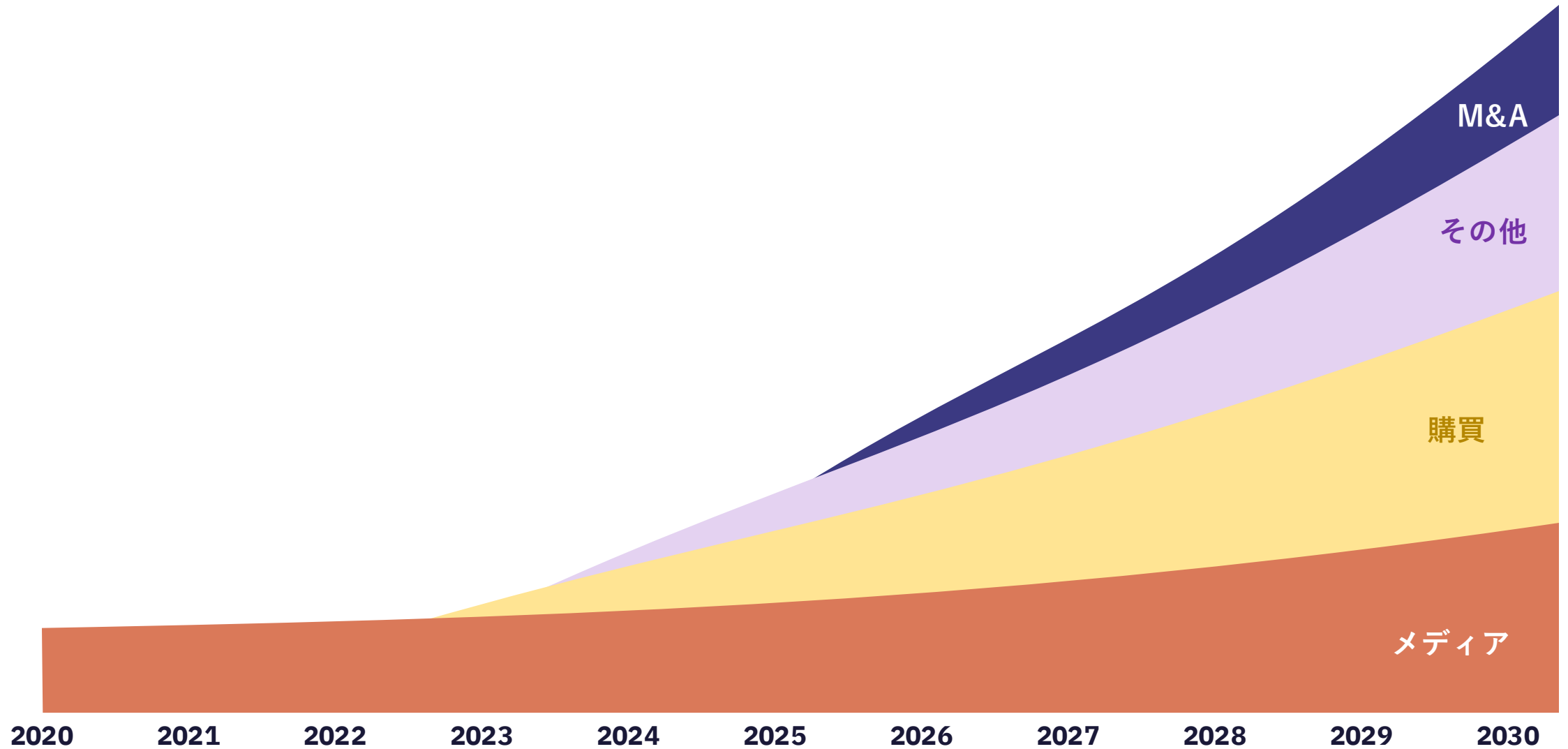


オフラインショッピングで
ポイント獲得



オンラインショッピングで
ポイント獲得

これまでの成長と今後の事業拡大イメージ



(ご参考) 事業セグメント別の主な収益ライン

(ご参考) 主な収益ライン

メディア

広告収益

アドネットワーク
広告

タイアップ広告

その他メディア収益

有料課金

掲載料

購買

オンライン
ショッピング

オフライン
ショッピング
(レシチャレ)

その他

ライブ配信

02 2026年3月期 第2四半期業績

2Q累積値に関し、売上高は前年同期比(FY25/3期2Q) 34.3%の増収、売上総利益は同23.4%の増益となった。
2Q単体値については、売上高は前年同期比42.0%の増収、売上高総利益で41.6%の増益となった。

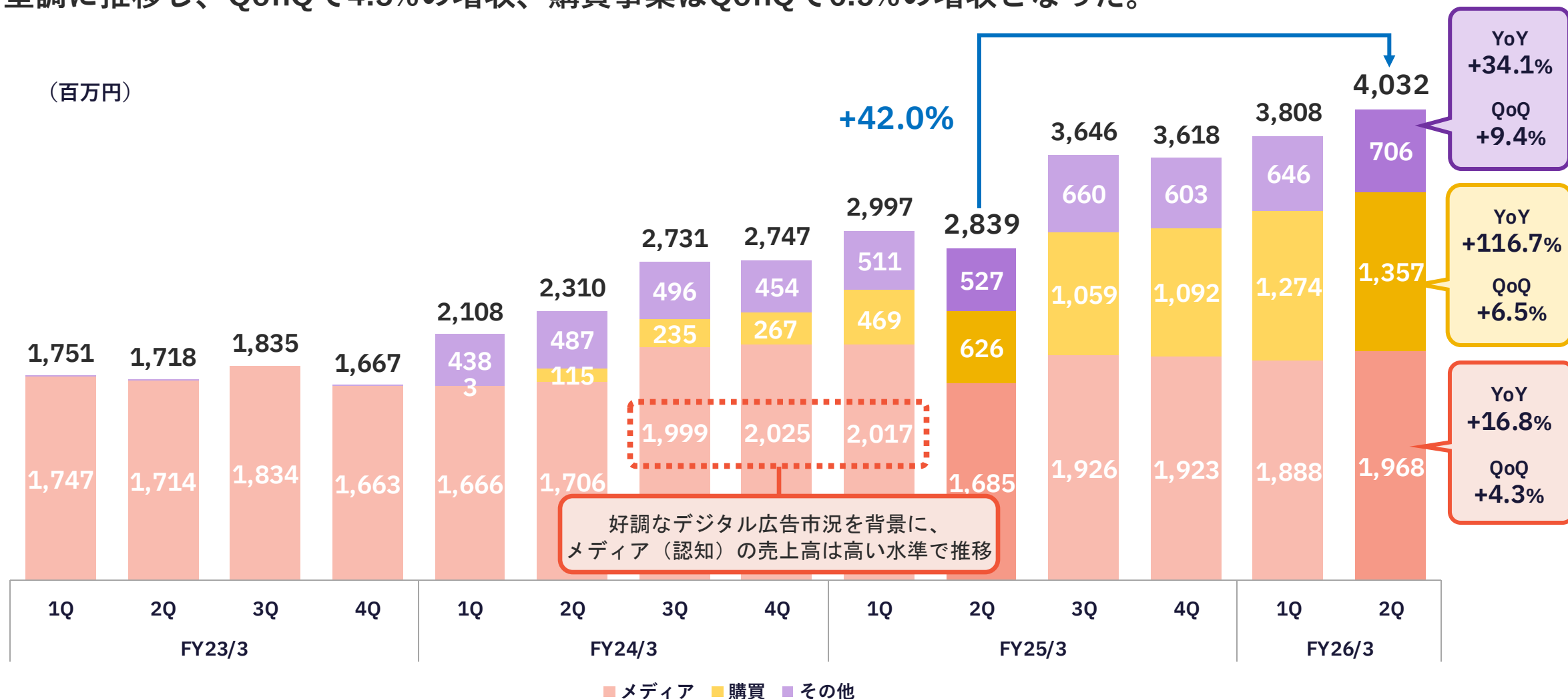
(百万円)	四半期累計				四半期単体		
	FY25/3 2Q	FY26/3 2Q	YoY	ガイダンス進捗率	FY25/3 2Q	FY26/3 2Q	YoY
売上高	5,836	7,841	+34.3%	45.7%	2,839	4,032	+42.0%
メディア	3,702	3,856	+4.2%	-	1,685	1,968	+16.8%
購買	1,095	2,631	+140.2%	-	626	1,357	+116.7%
その他	1,038	1,353	+30.3%	-	527	706	+34.1%
売上総利益	3,018	3,724	+23.4%	-	1,343	1,902	+41.6%
売上総利益率	51.7%	47.5%	-4.2pt	-	47.3%	47.2%	-0.1pt
営業利益	1,267	1,562	+23.3%	46.3%	438	806	+84.0%
営業利益率	21.7%	19.9%	-1.8pt	-	15.4%	20.0%	+4.6pt
Non-GAAP営業利益 ^{*1}	1,344	1,639	+21.9%	46.5%	477	845	+77.2%
Non-GAAP営業利益率	23.0%	20.9%	-2.1pt	-	16.8%	21.0%	+4.2pt
当期純利益	787	1,091	+38.5%	47.5%	256	570	+122.7%
当期純利益率	13.5%	13.9%	+0.4pt	-	9.0%	14.1%	+5.1pt
Non-GAAP当期純利益 ^{*2}	860	1,164	+35.3%	47.7%	292	607	+107.5%
Non-GAAP当期純利益率	14.7%	14.9%	+0.2pt	-	10.3%	15.1%	+4.8pt

^{*1} Non-GAAP営業利益とは買収によるのれん償却費及び無形資産償却費を営業利益に加算した金額（詳細はP45参照）

^{*2} Non-GAAP当期純利益とは純利益から加算した償却費に対応する税金調整額を調整した金額（詳細はP45参照）

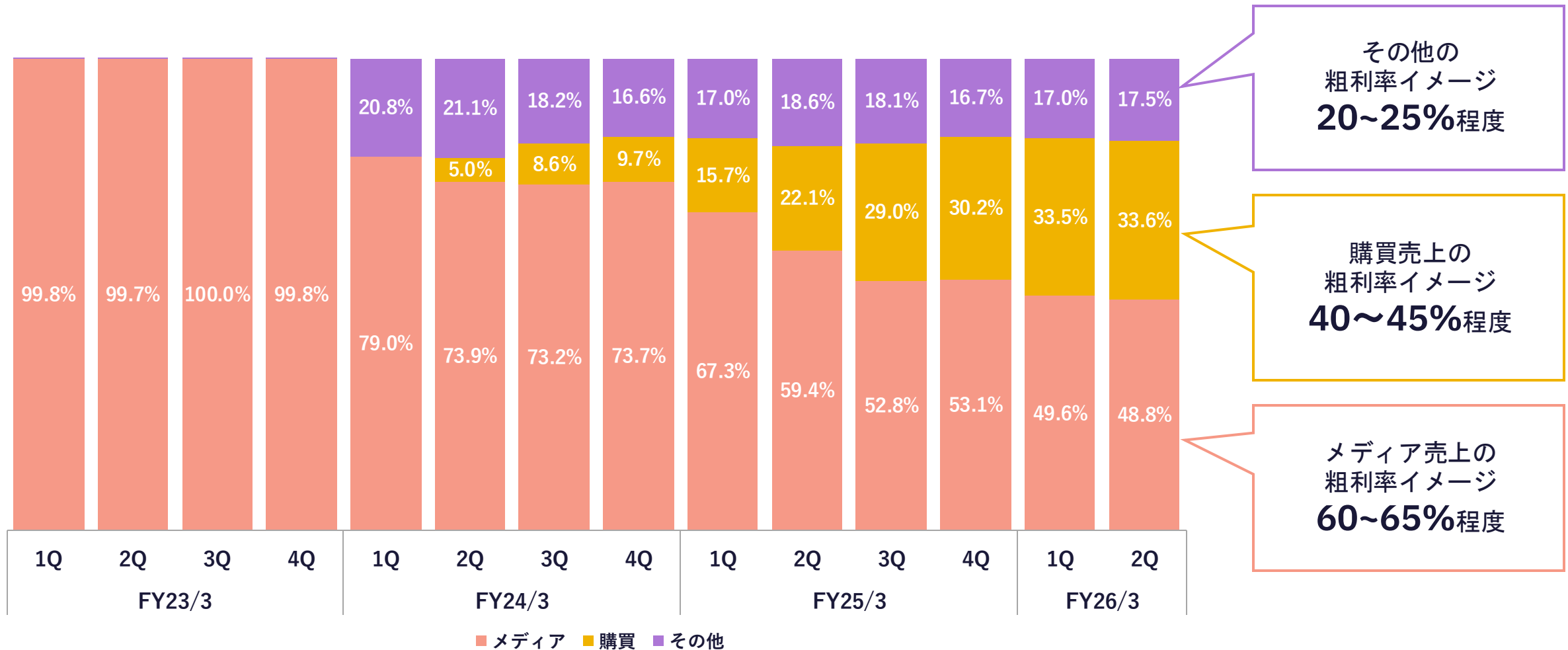
事業別売上高の推移（四半期別）

全体で見るとYoYで42.0%、QonQで5.9%の増収となった。事業別で見ると、メディア事業はPV及び単価が堅調に推移し、QonQで4.3%の増収、購買事業はQonQで6.5%の増収となった。



事業別売上高構成比の推移（四半期別）

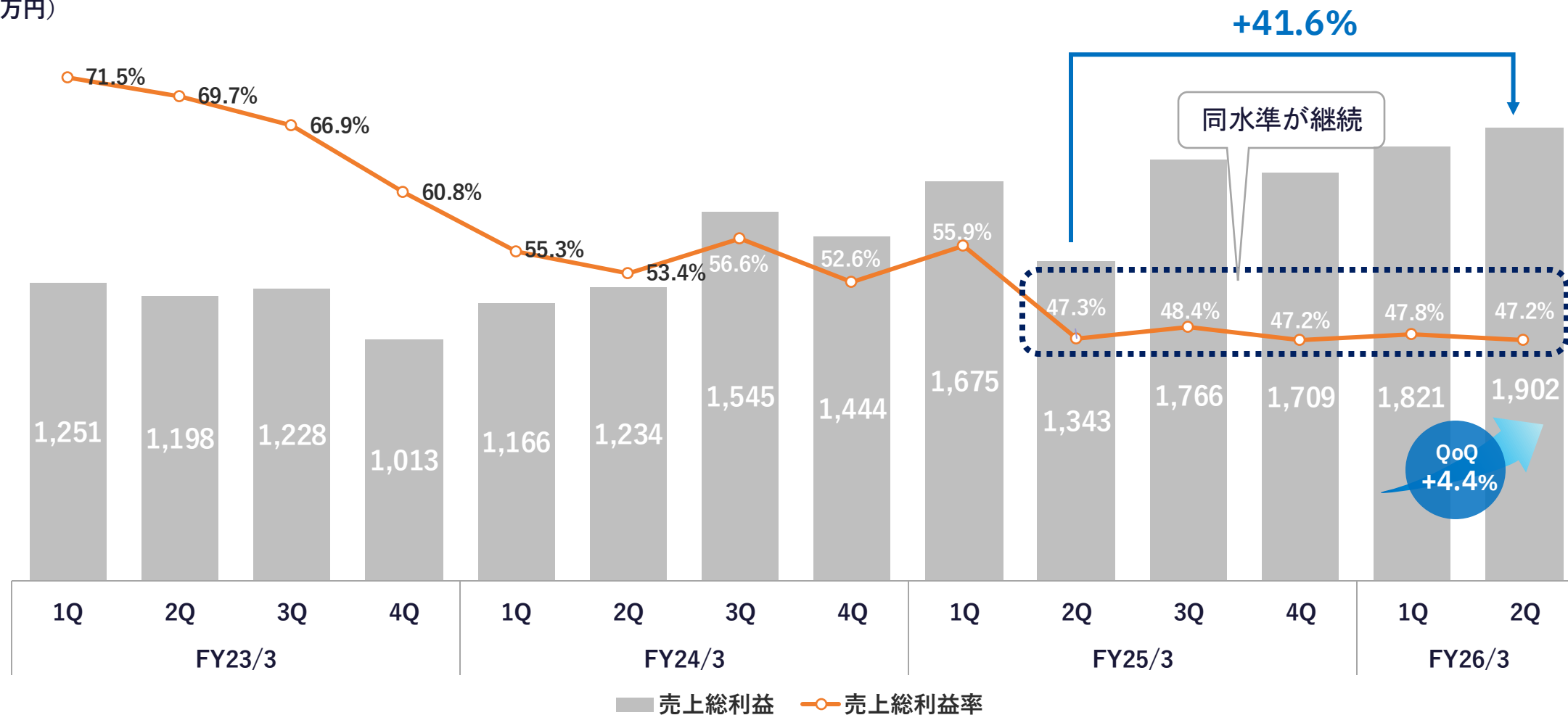
購買事業の増収により、同事業の全体に占める売上比率は33.6%となり、メディア事業による全体比率は48.8%となった。



売上総利益及び売上総利益率の推移（四半期別）

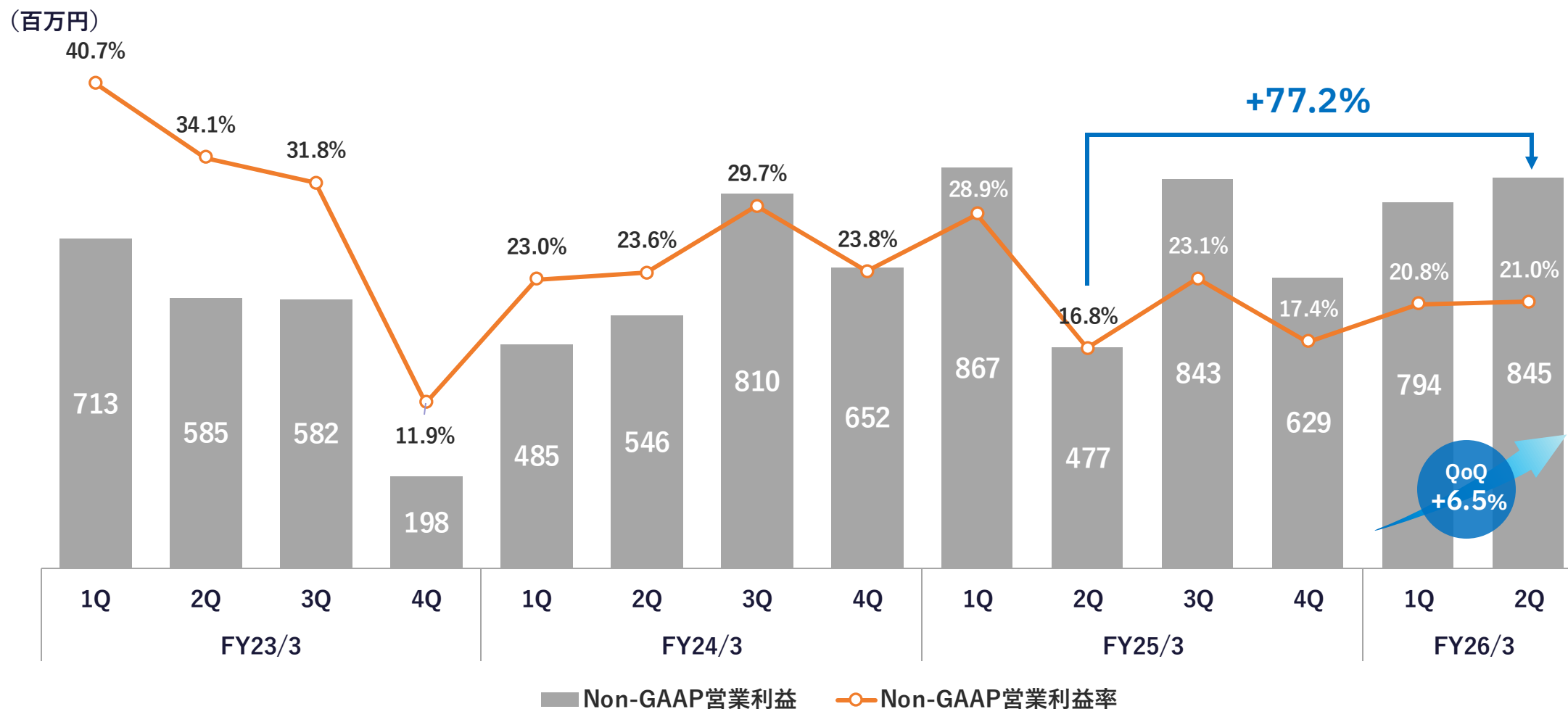
前年同期比での大幅な増収の結果、売上高総利益も41.6%と大幅な増益となった。また、直近四半期の売上高総利益率は47.2%と、FY25/3期2Q～FY26/3期1Qと同等水準の着地となった。

(百万円)



Non-GAAP営業利益*の推移（四半期別）

今期2Qは広告宣伝投資などを積極的に実施しつつも、前年同期比で売上高総利益が大幅に増加した結果、Non-GAAP営業利益に関しても前年同期比77.2%と大幅な増益となった。



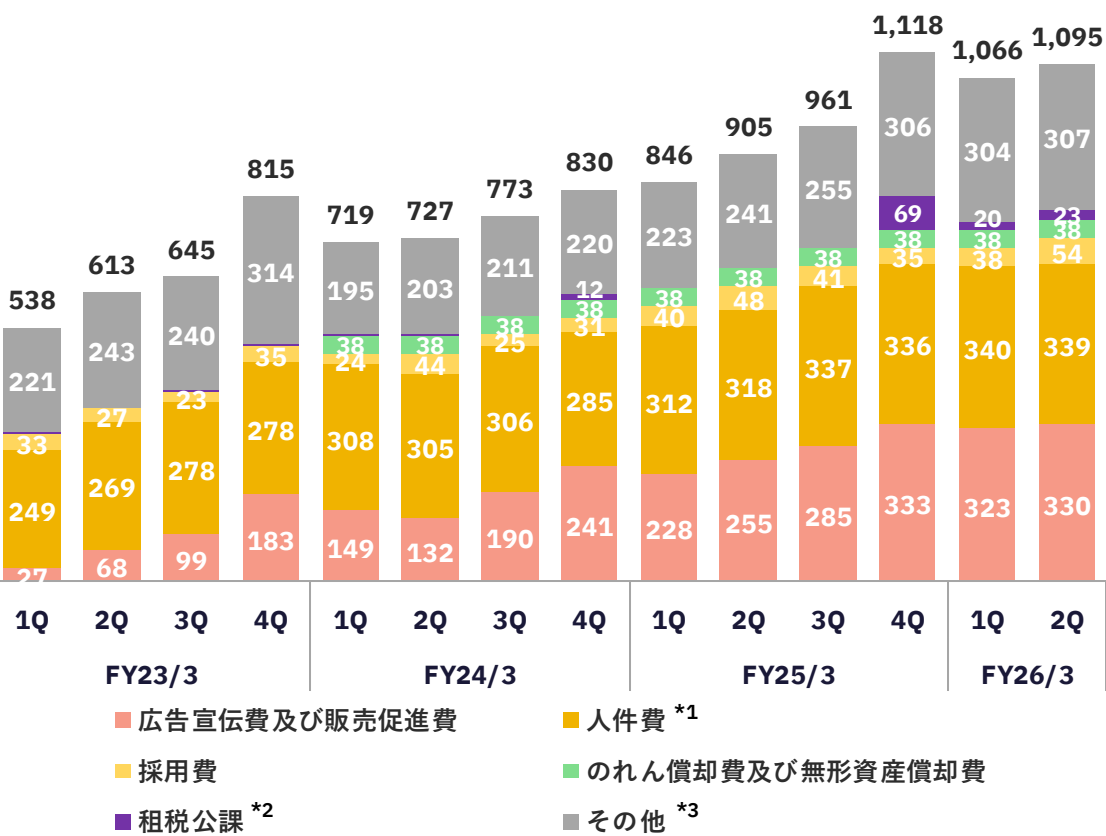
* Non-GAAP営業利益とは買収によるのれん償却費及び無形資産償却費を営業利益に加算した金額（詳細はP45参照）

販管費の推移（四半期別）

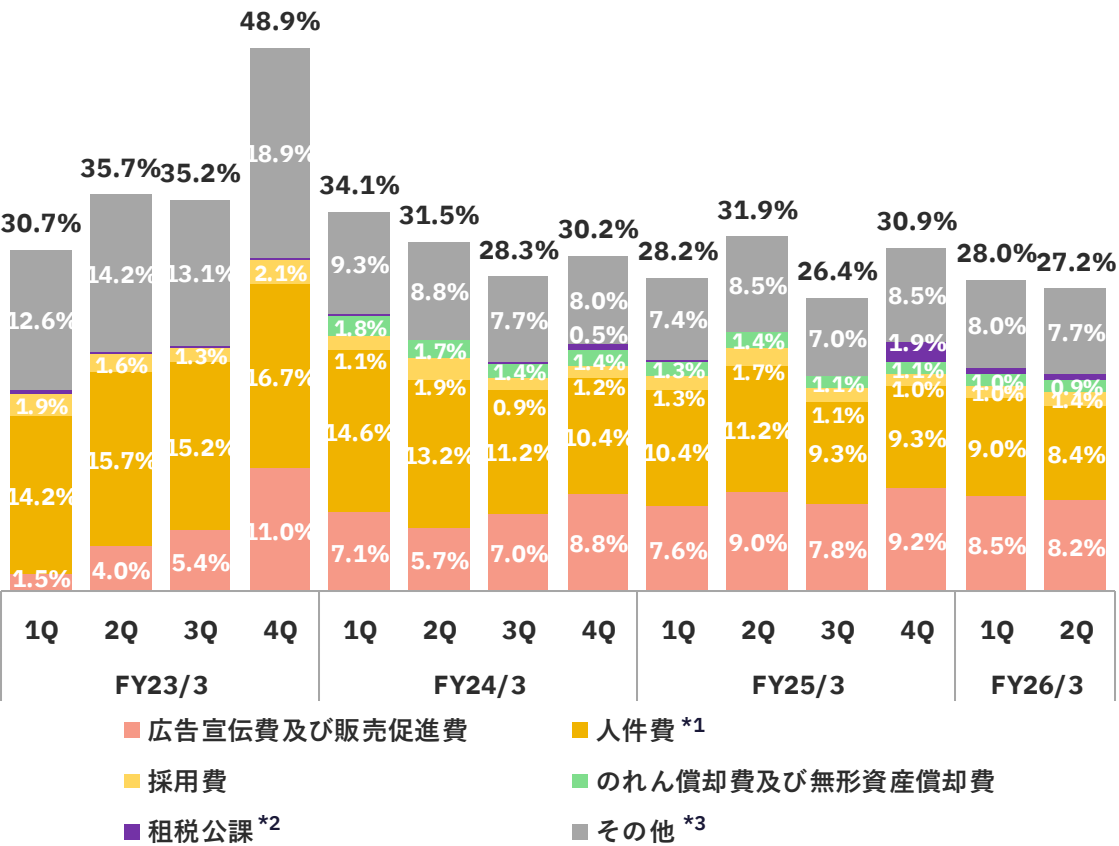


広告宣伝費に関しては、FY25/3本決算で触れていたように直近四半期比(FY26/3期1Q)と同水準である約3.3億円の投資を実行。また人材採用に伴い、採用費についても直近四半期比で約16百万増加。

販管費の内訳推移
(百万円)



販管費対売上高比率推移
(%)

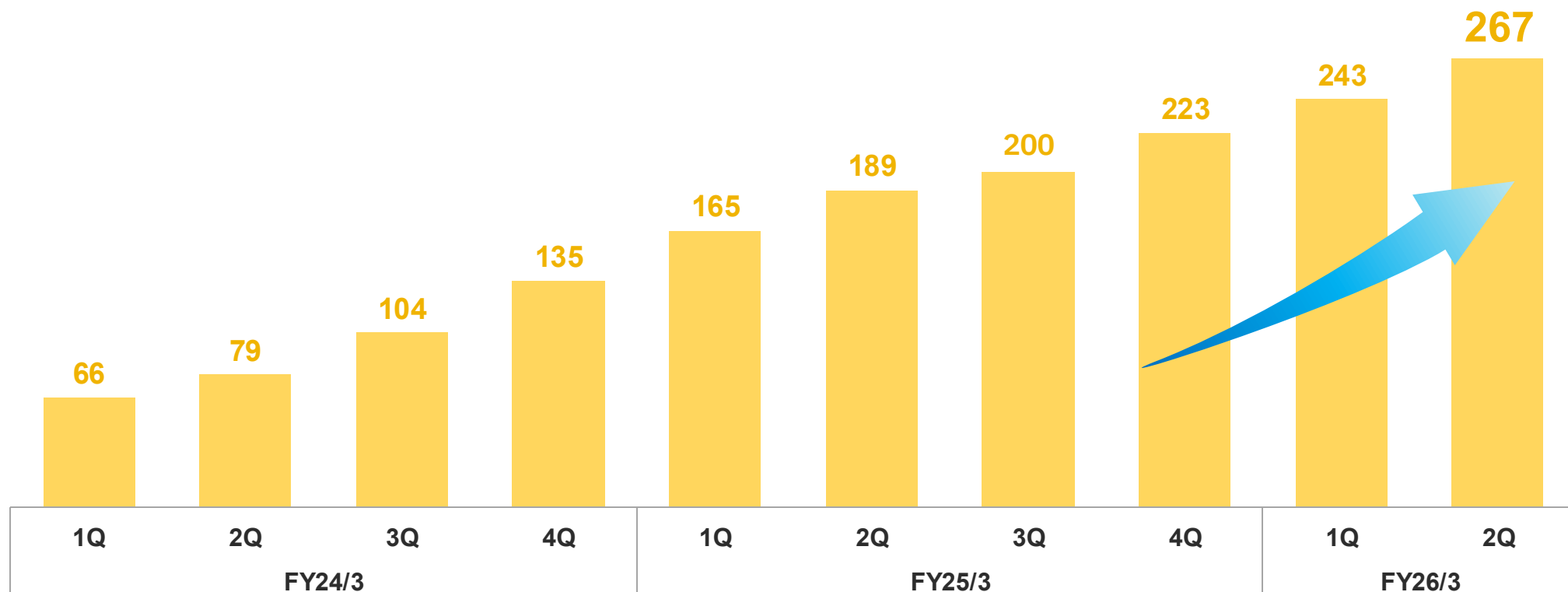


*1 「人件費」には、役員、正社員人件費及びアルバイト人件費が含まれる。*2 FY25/3 4Q以降の「租税公課」の主な内訳は、外形標準課税。
*3 「その他」には、主に業務委託費、外注費、システム利用料等が含まれる。

クラシルリワード関連 MAUの推移

クラシルリワード関連 MAUについては、レシチャレユーザーを意識的に増やすことで24万増加し、267万 MAUとなった。

クラシルリワード関連 MAU*（万）

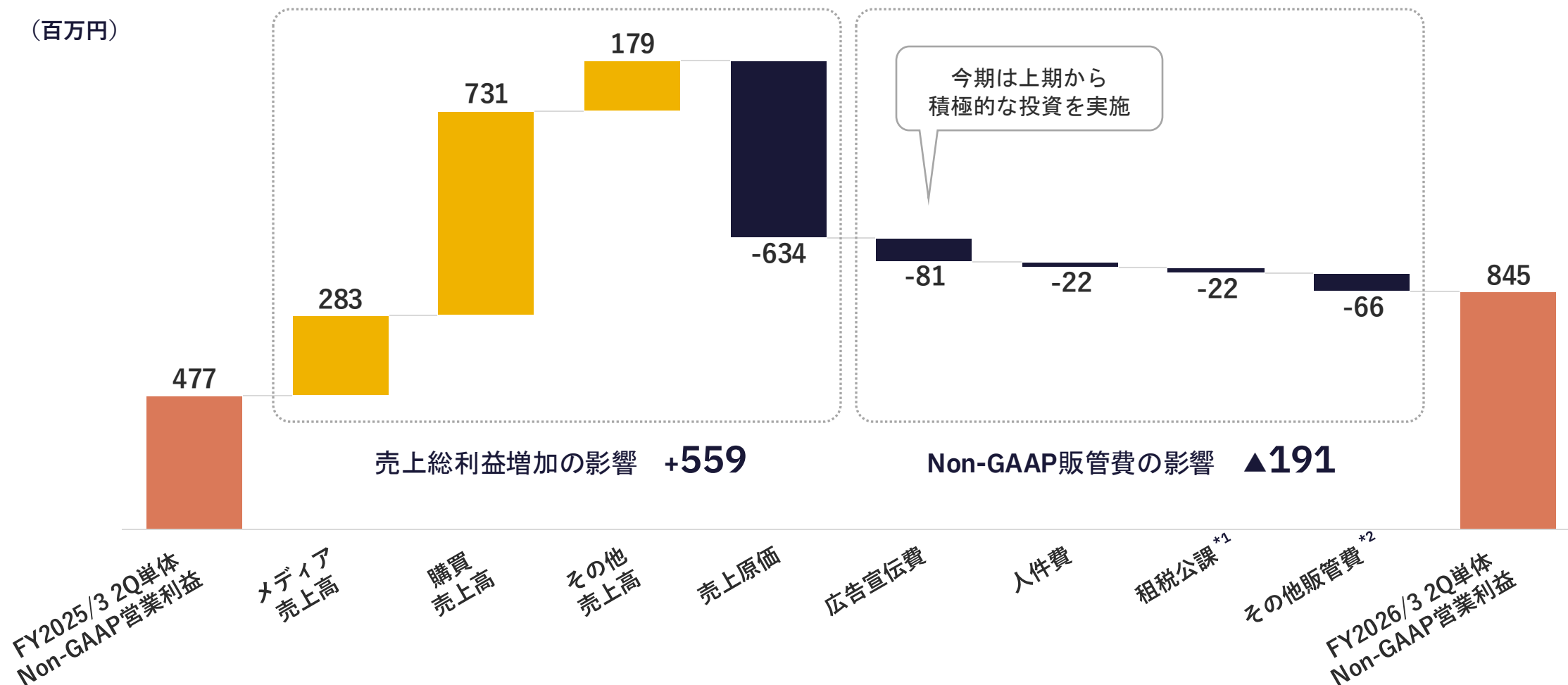


* 各四半期におけるクラシルリワード関連 MAUの合算値の期間平均（過去30日間にWebへのアクセス又はアプリを起動したユニークユーザー数の合計（WebとAPPの重複ユーザーの排除はしていません。））クラシルリワードのWebサイト開発に注力したことを鑑み、2026年3月期第二四半期より、クラシルリワードのWebサイトのMAUをクラシルリワード関連MAUの内訳に入れております。

Non-GAAP営業利益の増減要因（2Q単体 前年同期対比）

売上総利益はメディア事業、購買事業の伸長の結果、559百万円の増加となった。今期初より見込んでいたクラシルリワードの広告宣伝費の積極的な投資などによりNon-GAAP営業利益は368百万円の増益で着地。

（百万円）

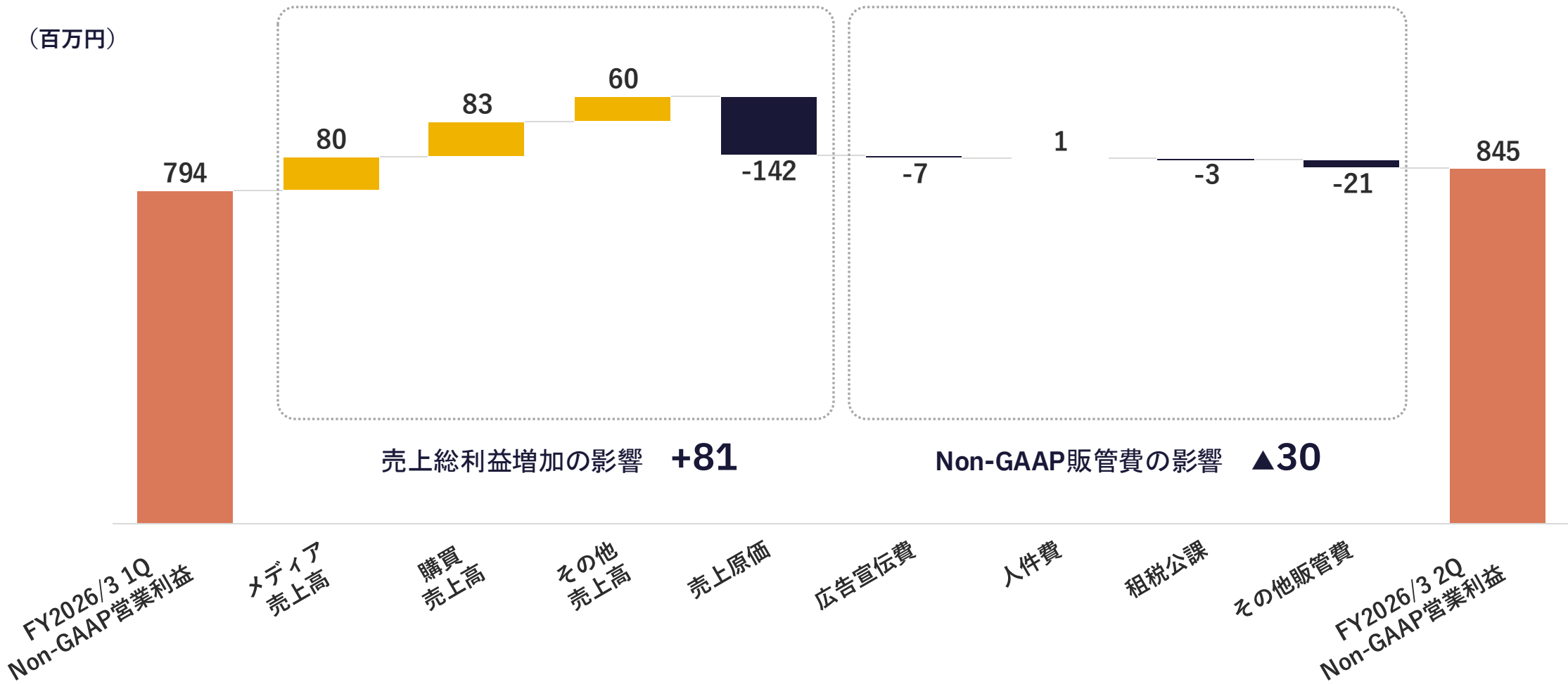


^{*1}「租税公課」の増加分 22百万円の主な内訳は、外形標準課税の増加21百万円。

^{*2}「その他販管費」の増加分 66百万円の主な内訳は次の3点: ①業務委託費の増加 26百万円、②システム利用料の増加 19百万円、③地代家賃の増加 13百万円

Non-GAAP営業利益の増減要因（前四半期対比）

対前四半期比で見ると、売上総利益は81百万円の増益となり、Non-GAAP販管費ではクラシルリワードに関する開発の業務委託費用などが21百万円増加した結果、Non-GAAP営業利益は51百万円の増益となった。



03 購買領域における戦略とアップデート

販促市場のデジタル化において我々が目指したい姿

従来の販促マーケティングに関しては非効率性が見られる施策が多く含まれていたが、デジタル化へのシフトを通じ、今後ユーザーへの直接マーケティングを進める。

現状

販促費
(15兆円)^{*1}

消費者への
一斉値下げ

購買データとの
連携不足

店頭施策の手間

日本の購買消費額
約156兆円のうち、約9割が
オフラインの購買^{*2}

 **クラシルリワード**
ユーザーへの
ダイレクトマーケティング

効率化された世界

クライアントの
利益

販促費

 ターゲティング
プロモーション

 網羅的な
購買情報取得

 販促物設置
(システム連携不要)

^{*1} 株式会社レイヤーズ・コンサルティングの開示情報における2020年の推定値に基づく。

^{*2} 経済産業省「令和5年度 電子商取引に関する市場調査」より、物販系分野のBtoC-EC市場規模（14兆6,760億円）のEC化率（9.38%）を元に日本の購買消費額を算出。

オンライン・オフラインでお得な買い物体験を提供

クラシルリワードでは、オンライン・オフラインによる当社独自のお得なお買い物体験をユーザーに提供。

オフラインショッピング



レシチャレ対象商品を探す



店頭での商品購入



レシートをアップロード

オンラインショッピング



サービス/アプリ/ECショップを探す



- ECサイトでお買い物
- アプリダウンロード
- 口座開設などのサービス申し込み
など

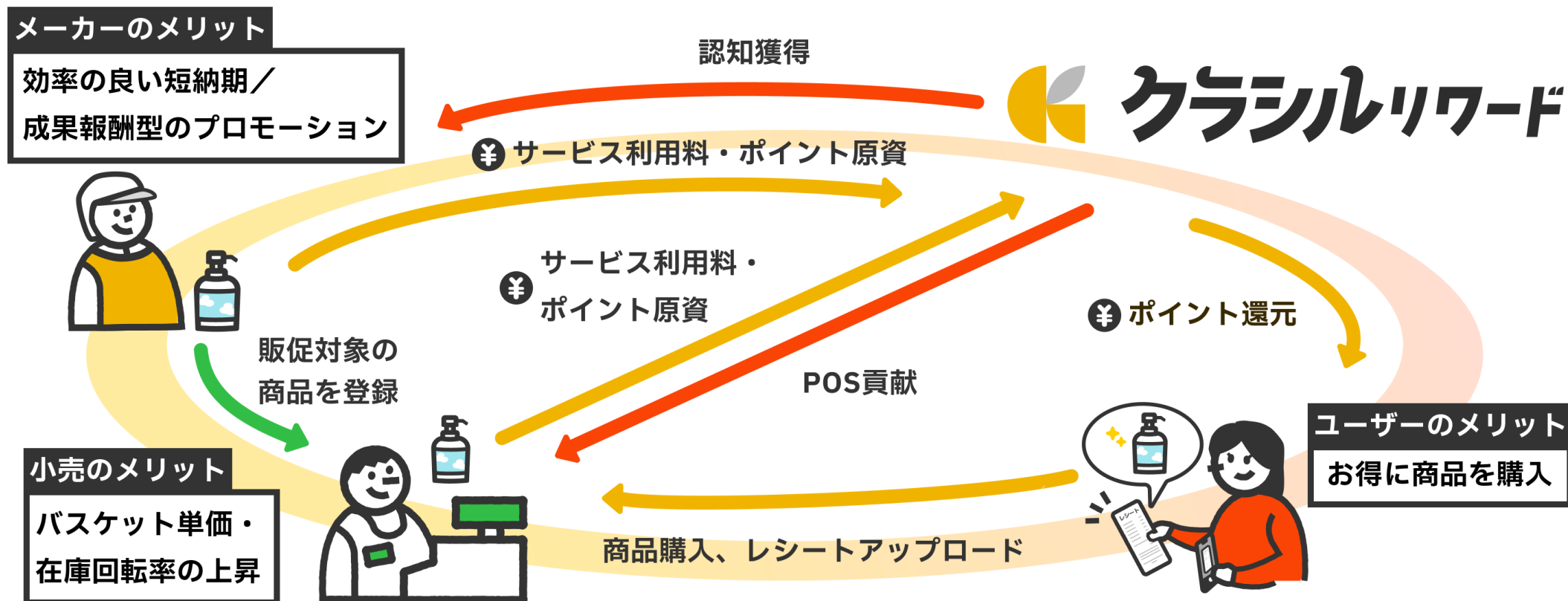


ポイント獲得

オフラインショッピング（レシチャレ） サービスに関する概要

当社はメーカーと小売企業に対してレシチャレによる販促支援を提供。メーカー又は小売企業から運用費用・ポイント原資を受け取り、ユーザーへポイントを還元。

レシチャレ販促支援モデル



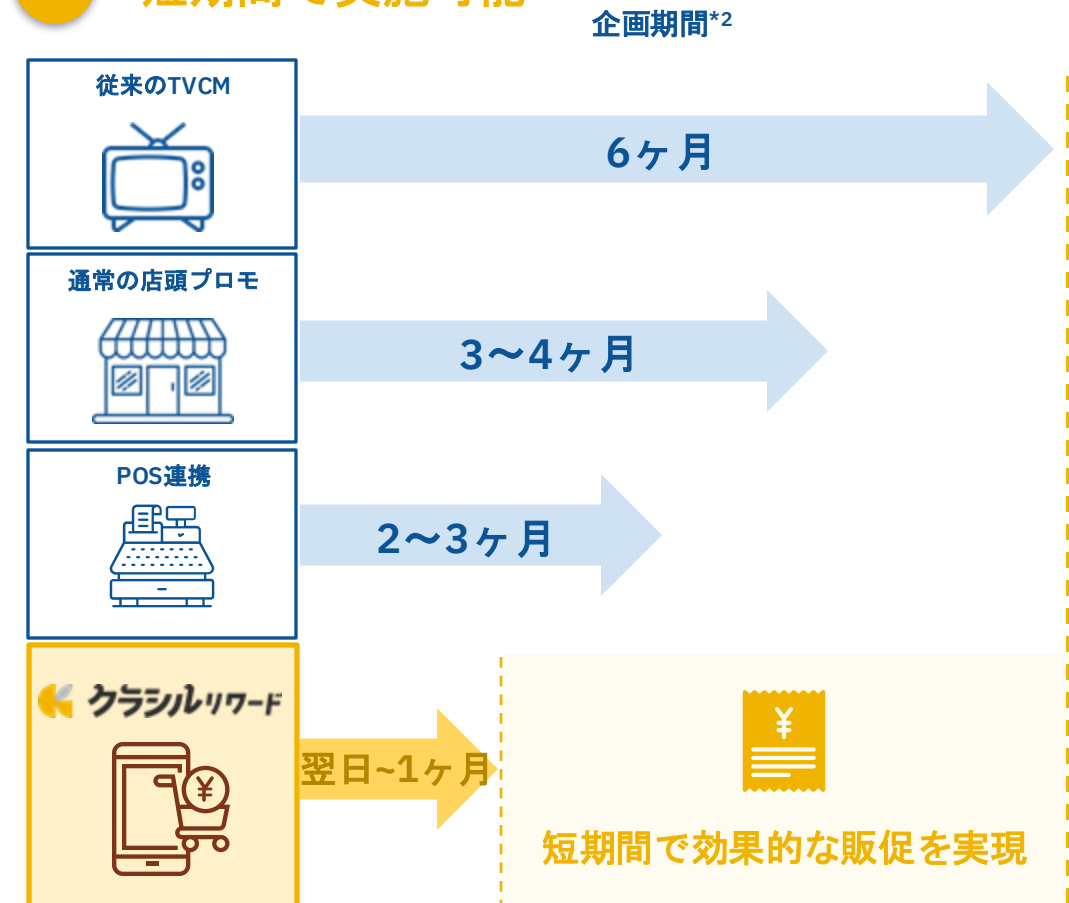
クラシルリワードに関する既存販促サービスとの差別化要素

【①店頭売価の維持②短期間で実施可能③成果報酬モデル④高い売上効果⑤オフライン購買情報の可視化】の5要素の組み合わせが他販促支援サービスとの差別化であり、リリース後高い受注率とリピート率を維持。

1 店頭売価の維持*1



2 短期間で実施可能



*1 当社分析によるイメージ図

*2 「従来のTVCM」「通常の店頭プロモ」「クーポン」の企画期間はクライアントからのヒアリングに基づく。クラシルリワードの「翌日~1ヶ月」は当社で受注からキャンペーン開始までに要する期間

クラシルリワードに関する既存販促サービスとの差別化要素

【①店頭売価の維持②短期間で実施可能③成果報酬モデル④高い売上効果⑤オフライン購買情報の可視化】の5要素の組み合わせが他販促支援サービスとの差別化であり、リリース後高い受注率とリピート率を維持。

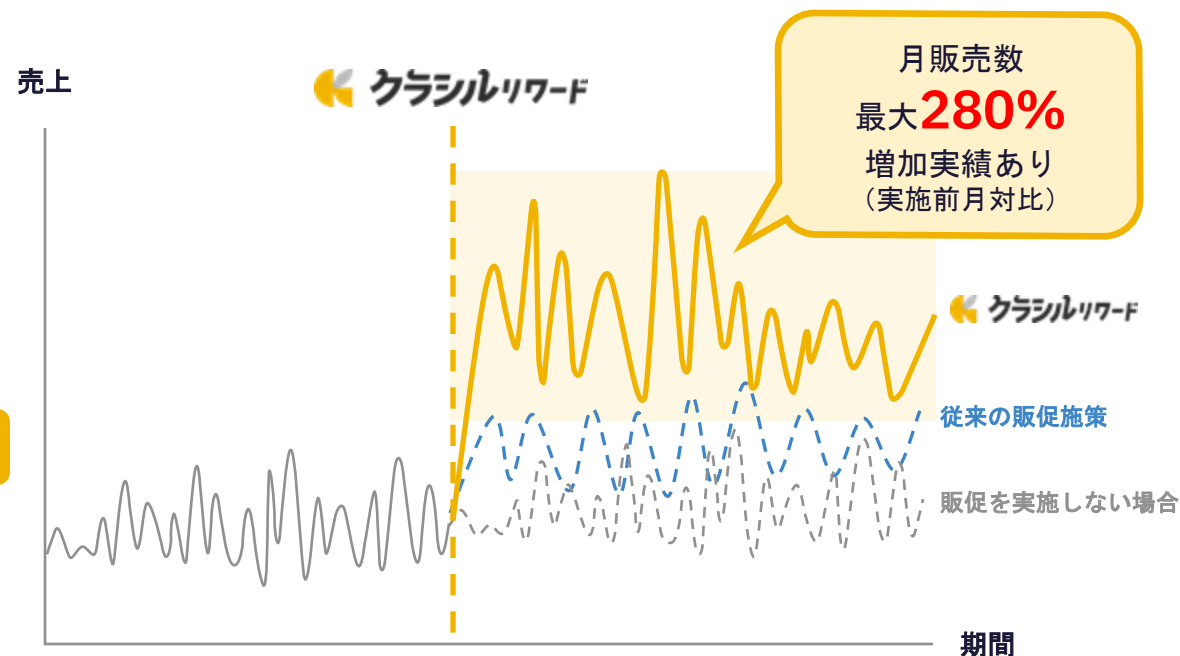
3 ROASが可視化される成果報酬モデル*1

実際に販売された個数のみを請求する
ROAS*2が可視化されるオフラインの成果報酬モデル



4 高い売上効果*3

レシチャレ実施後のPOSが
他のソリューション対比で高い効果を実現



*1 当社分析によるイメージ図

*2 Return on Advertising Spendの略称、 *3 クライアントヒアリングに基づくイメージ図

【①店頭売価の維持②短期間で実施可能③成果報酬モデル④高い売上効果⑤オフライン購買情報の可視化】の5要素の組み合わせが他販促支援サービスとの差別化であり、リリース後高い受注率とリピート率を維持。

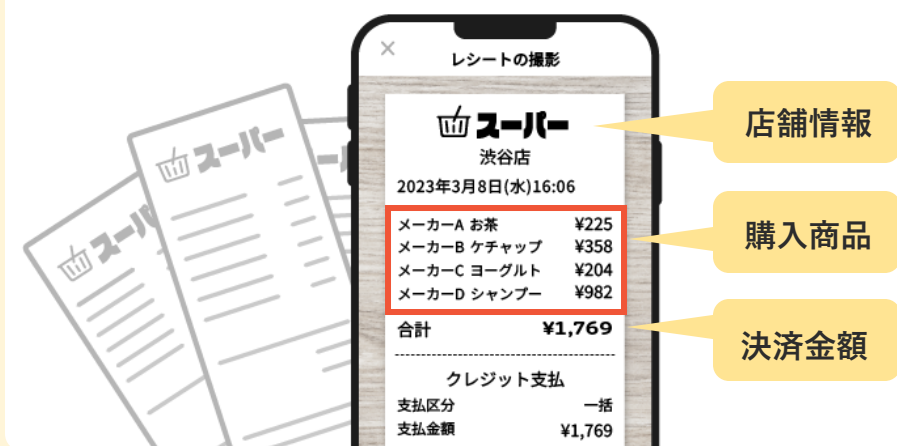
5 オフライン購買情報の可視化

決済系サービス・クレジットカード



オフライン購買情報を
商品単位で取得できない

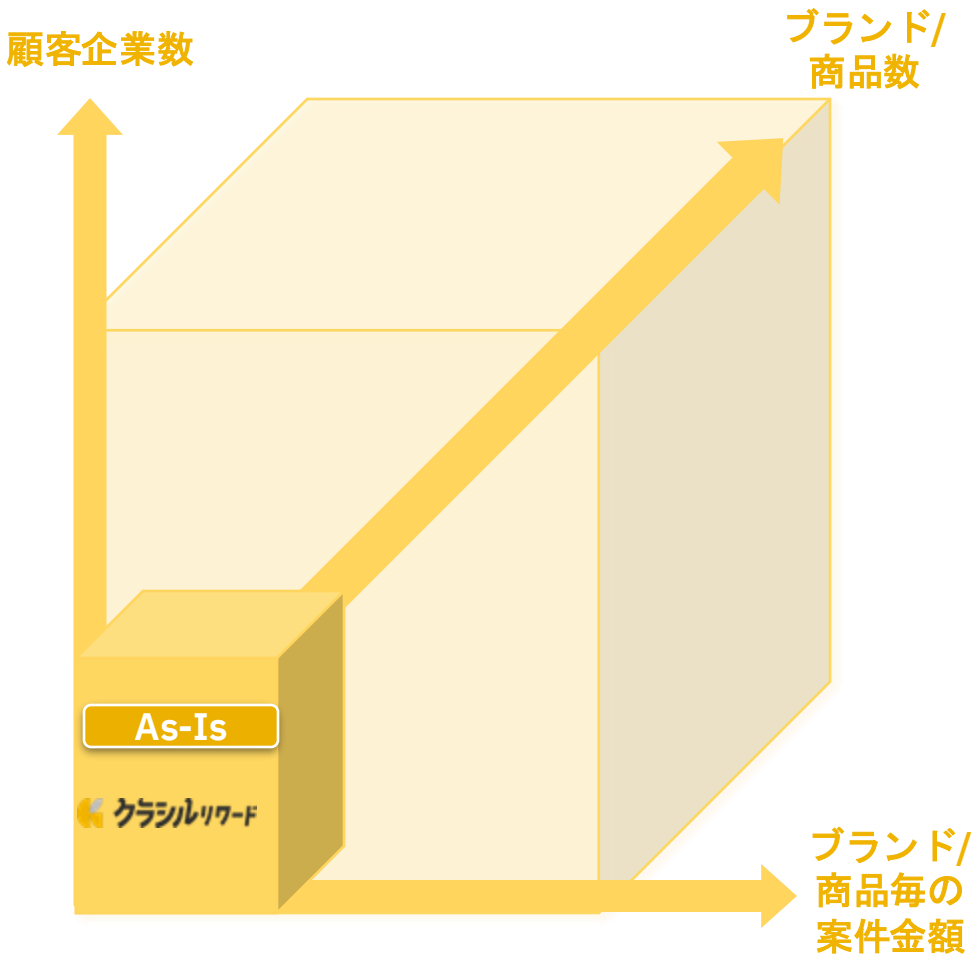
クラシルリワード



オフライン購買情報を商品単位で取得
ターゲティングプロモーションが実施可能に

レシチャレに関する事業拡張の方針

商材業種は食料/飲料品については導入企業数は多いものの、1社あたりの導入ブランド数に大きな拡大余地があり、小売業種はドラッグストアが先行しているものの、取り扱い商品数に大きな拡大余地がある。



商材業種

	顧客企業数	1社あたりの 導入ブランド数	1ブランド毎の 案件金額
食料/飲料			
日用品			
化粧品			
オンライン製品			
一般用薬品			

小売業種

	顧客企業数	1社あたりの 導入商品数	1商品毎の 案件金額
ドラッグストア			
スーパーマーケット			
オンラインEC			
コンビニエンスストア			

既に参入している領域
 今後参入予定の領域

クラシルリテールネットワークに関するアップデート

本年8月よりレシチャレの仕組みを外部アプリ向けに提供するサービスを開始。ローンチ以降、既にYahoo Japan!及びスマートニュースの両アプリにて導入を開始。本格的な業績貢献は来期以降を見込む。



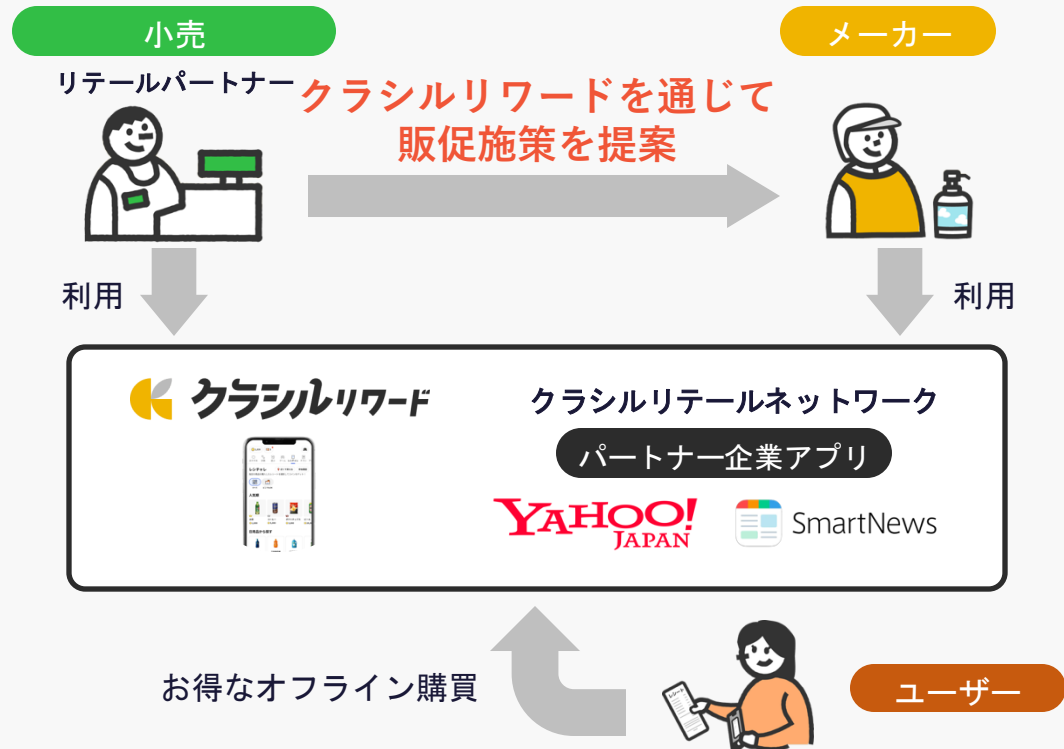
ユーザー数と提携ブランド・小売企業力拡大によるFlywheel効果

ユーザー数が増えることによりプラットフォームとしての魅力度が向上し、toBクライアントからの魅力的な案件が増えることにより、ユーザーエンゲージメントが向上するというFlywheel効果が存在。



既に5社が、クラシルリワードの「リテールパートナー」として参画。リテールパートナーの協力のもと、クラシルリワードを利用する顧客企業数の更なる拡大を狙う。

リテールパートナーの協力により、
クラシルリワードの利用メーカー数が更に拡大

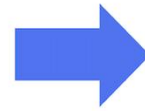


リテールパートナー一覧



クラシルリワードのプロダクトアップデートについて

クラシルリワードに関し、よりレシチャレに焦点を当てたビジネスモデルへ変革していくため、本年11月よりプロダクト名称を「レシチャレ」にアップデートする方針。

 **クラシルリワード** **レシチャレ** by クラシル

旧UI

レシチャレとオンラインが
バランスよく存在



新UI

案件およびユーザー・ニーズの
増加により、レシチャレを
中心とした機能・訴求に変更

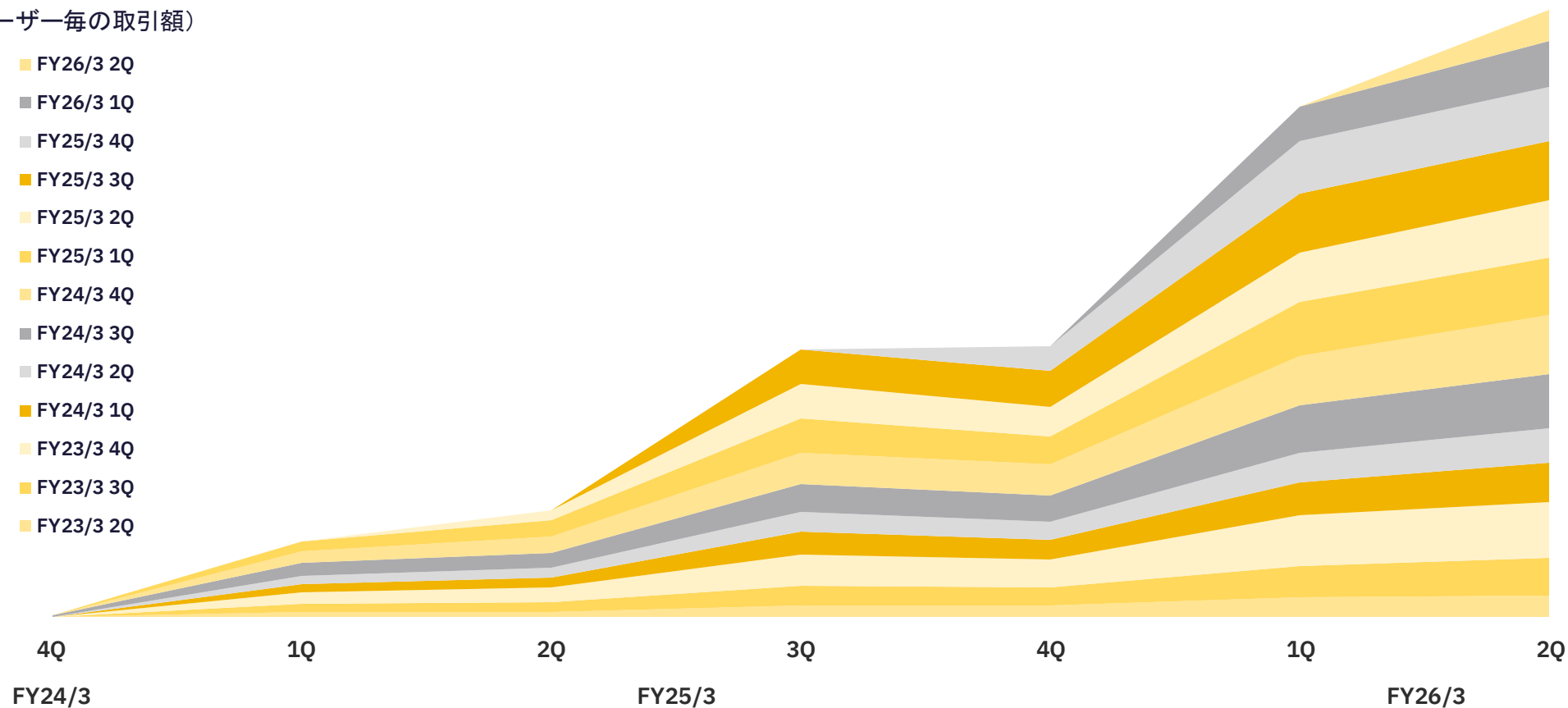
レシチャレに関するユーザー毎の取引額の成長イメージ

レシチャレに関してはメーカーや小売企業の取り扱い増加により、ユーザーに対して魅力的な案件数が増え、ユーザー毎の取引額も成長。

四半期別初回アプリ起動ユーザーの取引額の過去推移のイメージ

(ユーザー毎の取引額)

- FY26/3 2Q
- FY26/3 1Q
- FY25/3 4Q
- FY25/3 3Q
- FY25/3 2Q
- FY25/3 1Q
- FY24/3 4Q
- FY24/3 3Q
- FY24/3 2Q
- FY24/3 1Q
- FY23/3 4Q
- FY23/3 3Q
- FY23/3 2Q



オンラインサービスは初期フェーズよりARPUが高いが、ボラティリティが一定ある構造。レシチャレは営業によりクライアントが増え魅力的な案件が増えることによりARPUが増加する。

ARPU

レシチャレのARPUは案件の増加と共に
中長期的でオンラインのARPUを上回る

オフライン
(レシチャレ)

- 営業により徐々に案件開拓を行うため、**初期のARPUは相対的に低い**
- 一方で、魅力的な案件の増加に伴い、**ARPUが徐々に積み上がる見通し**

オンライン

- 統一プラットフォームにより、**初期から高いARPUを実現可能**
- ただし、出稿主の意向に左右されやすいため、**ボラティリティが生じやすい**

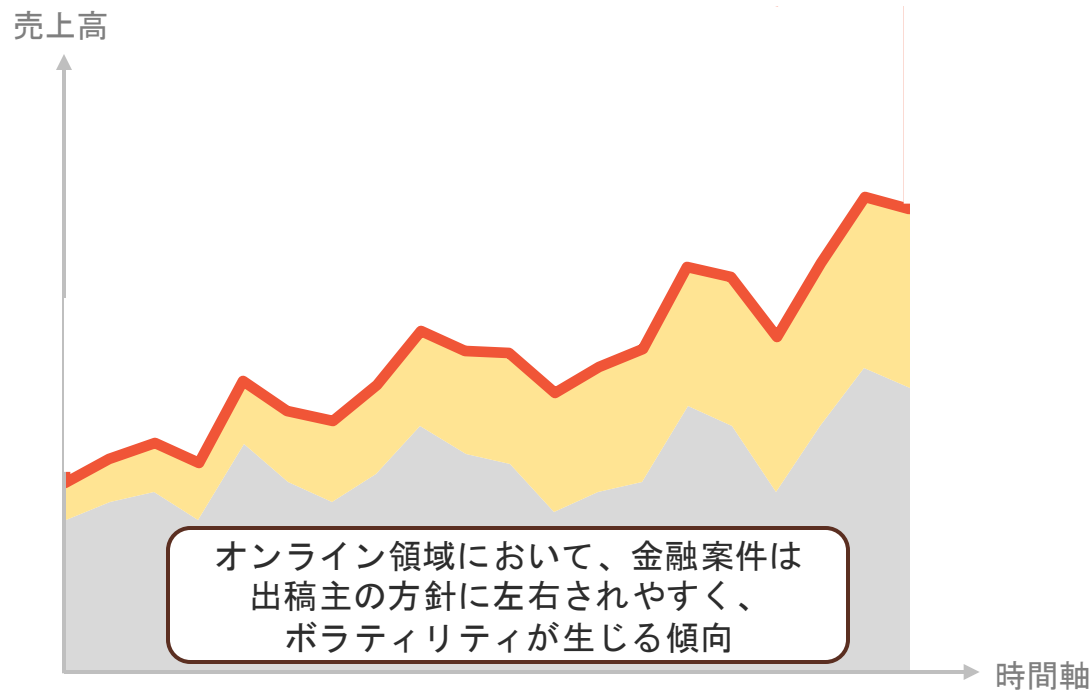
時間軸

レシチャレbyクラシル（旧名称：クラシルリワード）の成長イメージ

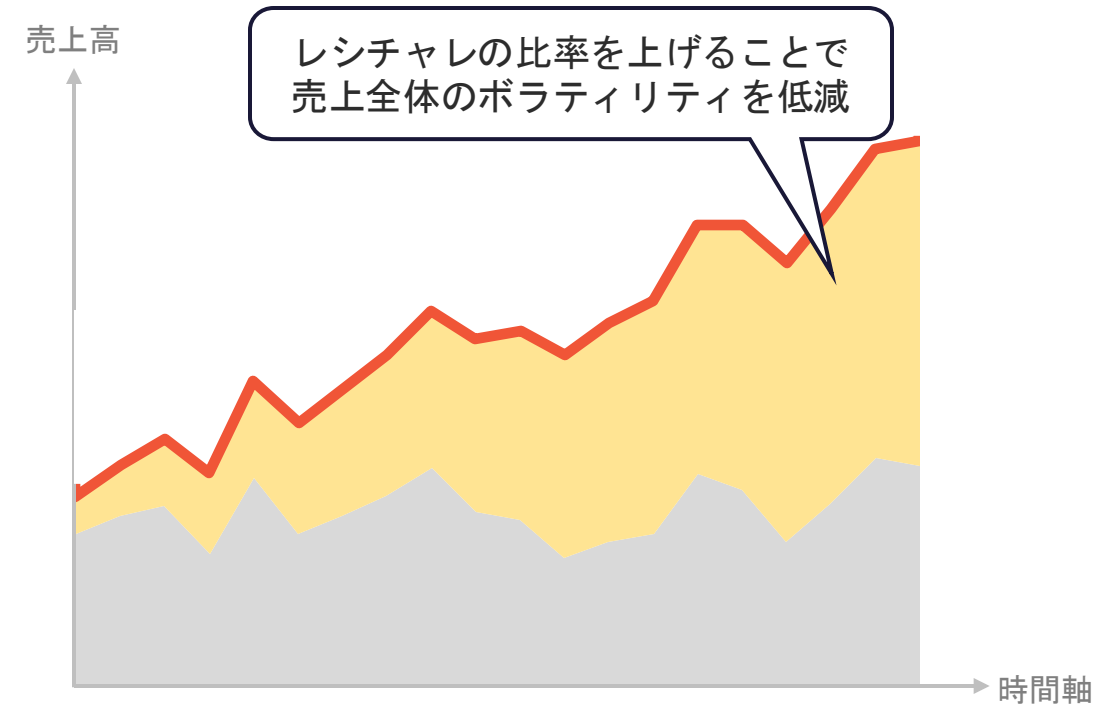


「レシチャレbyクラシル」へのプロダクトアップデートにより、オフラインの売上高比率が高まり、ボラティリティを低減しながら事業拡大する方針。

プロダクトアップデート前



プロダクトアップデート後



社名変更に関するアップデート：集英社人気コミックとコラボ

2025年10月1日の「クラシル」への商号変更を記念し、集英社とコラボレーション企画を実施。『ONE PIECE』『呪術廻戦』をはじめとした世界的人気コミック40作品の作中レシピをレシピ動画化し配信。



位置付け見直しに関する経緯

- クラシルリワードのユーザー基盤を活用したダイレクトリクルーティングサービス「クラシルジョブ」を展開
- 一定の求職者獲得は進んだものの、マッチング率が当初想定を下回る結果に
- 市場成長のタイミングや経営資源の最適配分を踏まえ、当該サービスの停止を決定

今後のHR事業の位置付け

- ダイレクトリクルーティングサービスからは撤退するものの、小売業界における人材不足の課題は依然として存在しているため、中長期でHR領域での新たな展開を模索

今後のスケジュール

- サービス廃止期日 2025年11月30日 (予定)

今期業績への影響について

- 本事業はPoC(概念実証)フェーズに位置付けており、期初より限定的なコストの範囲で運営
- 売上高・利益ともに今期業績への影響は軽微であり、当初の事業計画に対して特段の修正は不要

04 Q&A

質問	回答
2Qは会社の当初見通しに対してどのような業績着地だったか教えて欲しい。	• 全体感で見ると、メディア事業が好調に推移したことに加え、購買事業及びその他事業も力強く伸調したこともあり、売上高、売上総利益いずれにおいても当初想定していた水準を若干上回る着地となった。 • Non-GAAP営業利益も想定より上回っているが、採用が若干想定より遅延して進んでいる影響も一定程度含まれている。
メディア事業が好調に推移した背景について教えて欲しい。	• 各種施策により、PV数及び単価が堅調に推移した。
クラシルリテールネットワークに関する立ち上がりの感触について教えて欲しい。	• 本年8月にYahoo! Japanアプリへ、本年9月よりSmartNewsアプリへの導入を開始し、立ち上がりは想定の範囲内という状況。 • 本格的な業績貢献の見通しについては、来期以降を見込んでいる。
クラシルリテールパートナーと一般的な小売参画企業との違いについて教えて欲しい。	• リテールパートナー企業は、メーカー企業に対してレシチャレの拡販を後押しいただく座組となっている。 • 一般的な小売参画企業は、メーカーとクラシルで対話し、流通指定された場合に販売を実施。

05 Appendix

売上高で前年同期比30.8%、Non-GAAP営業利益^{*1}率で20.6%と、成長性と収益性のバランスを取りながら成長させる方針。

(百万円)	FY25/3 実績	FY26/3 業績予想	前年同期比
売上高	13,101	17,140	+30.8%
Non-GAAP営業利益 ^{*1}	2,817	3,529	+25.3%
Non-GAAP営業利益率	21.5%	20.6%	-0.9pt
営業利益	2,662	3,374	+26.7%
営業利益率	20.3%	19.7%	-0.6pt
Non-GAAP当期純利益 ^{*2}	1,838	2,442	+32.9%
Non-GAAP当期純利益率	14.0%	14.3%	+0.3pt
当期純利益	1,691	2,295	+35.7%
当期純利益率	12.9%	13.4%	+0.5pt
Non-GAAP EPS	44.50	59.13	+32.9%
EPS	40.94	55.57	+35.7%

^{*1} Non-GAAP営業利益とは買収によるのれん償却費及び無形資産償却費を営業利益に加算した金額（詳細はP45参照）

^{*2} Non-GAAP当期純利益とは純利益から加算した償却費に対応する税金調整額を調整した金額（詳細はP45参照）

(百万円)	通期			四半期累計		
	FY24/3 (実績)	FY25/3 (実績)	FY26/3 (業績予想)	FY24/3 2Q (実績)	FY25/3 2Q (実績)	FY26/3 2Q (実績)
売上高	9,897	13,101	17,140	4,418	5,836	7,841
YoY成長率	41.9%	32.4%	30.8%	27.3%	32.1%	34.3%
売上総利益	5,391	6,494	-	2,401	3,018	3,724
売上総利益率	54.5%	49.6%	-	54.3%	51.7%	47.5%
営業利益	2,340	2,662	3,374	954	1,267	1,562
営業利益率	23.6%	20.3%	19.7%	21.6%	21.7%	19.9%
当期純利益	1,482	1,691	2,295	604	787	1,091
当期純利益率	15.0%	12.9%	13.4%	13.7%	13.5%	13.9%

Non-GAAP営業利益／当期純利益（調整項目）

(百万円)	通期			四半期累計		
	FY24/3 (実績)	FY25/3 (実績)	FY26/3 (業績予想)	FY24/3 2Q (実績)	FY25/3 2Q (実績)	FY26/3 2Q (実績)
営業利益	2,340	2,662	3,374	954	1,267	1,562
のれん償却費	128	128	128	64	64	64
契約関連無形資産償却費	26	26	26	13	13	13
Non-GAAP営業利益	2,495	2,817	3,529	1,031	1,344	1,639
当期純利益	1,482	1,691	2,295	604	787	1,091
のれん償却費	128	128	128	64	64	64
契約関連無形資産償却費	26	26	26	13	13	13
調整項目に対する税金調整額*1	(9)	(8)	(8)	(4)	(4)	(4)
Non-GAAP当期純利益	1,628	1,838	2,442	677	860	1,164
営業利益率	23.6%	20.3%	19.7%	21.6%	21.7%	19.9%
Non-GAAP営業利益率	25.2%	21.5%	20.6%	23.4%	23.0%	20.9%
当期純利益率	15.0%	12.9%	13.4%	13.7%	13.5%	13.9%
Non-GAAP当期純利益率	16.5%	14.0%	14.3%	15.3%	14.7%	14.9%

貸借対照表

(百万円)	FY24/3 (実績)	FY25/3 (実績)	FY26/3 2Q (実績)
現金及び預金	7,087	8,888	7,042
有価証券	-	-	2,995*
その他	1,503	2,138	2,294
流動資産合計	8,591	11,026	12,331
のれん	770	642	578
契約関連無形資産	53	26	13
その他固定資産	1,119	1,461	1,657
固定資産合計	1,944	2,129	2,248
未払金	579	820	833
未払法人税等	480	608	656
ユーザー還元引当金	376	770	1,014
その他流動負債	191	363	306
流動負債合計	1,628	2,561	2,809
純資産合計	8,906	10,594	11,770
総資産合計	10,535	13,155	14,579

* 全て満期3ヶ月の商業・ペーパーによる計上金額。

キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	FY24/3 (実績)	FY25/3 (実績)	FY26/3 2Q (実績)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,406	2,114	1,171
税引前当期純利益	2,325	2,606	1,565
減価償却費	41	34	20
のれん償却費	128	128	64
ユーザー還元引当金の増減額	318	393	244
売上債権の増減額	(321)	(602)	(104)
未払金の増減額	125	220	39
その他	(1,210)	(665)	(657)
投資活動によるキャッシュ・フロー	87	(314)	(104)
有形固定資産の取得による支出	(20)	(66)	(29)
無形固定資産の取得による支出	(9)	(6)	(5)
投資有価証券の取得による支出	-	(188)	(70)
その他	118	(54)	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	0	82
現金及び現金同等物の増減額	1,493	1,801	1,150
現金及び現金同等物の期首残高	5,593	7,087	8,888
現金及び現金同等物の期末残高	7,087	8,888	10,038*

* 満期3ヶ月のコマーシャル・ペーパーによる短期運用分を含む。2026年3月期第2四半期会計期間の貸借対照表上では「有価証券」（流動資産）として29億円計上。（詳細はP46を参照）

会社名	クラシル株式会社	
所在地	東京都港区芝浦	
設立	2014年4月	
主要株主	LINEヤフーグループ ※ LINEヤフー株式会社及びYJ2号投資事業組合が出資 堀江 裕介	
資本金	100,449,500円	(2025年3月時点)
従業員数*1	204名	(2025年3月時点)
事業内容	- レシピ動画プラットフォーム「クラシル」の運営 - お買い物サポートアプリ「クラシルリワード」の運営 - ライフスタイルメディア「TRILL」の運営 - クリエイターマネジメント事務所「LIVEwith」の運営	



*1 従業員数にはアルバイト・派遣社員・取締役・監査役を含まない

経営陣には創業期のメンバーに加え、経験豊富な人材が経営を担う。



代表取締役社長 / CEO
堀江 裕介

慶應大在学中にクラシルを設立。「クラシル」を国内有数のレシピ動画サービスへ成長させる



取締役 / CFO
戸田 翔太

SMBC日興証券の投資銀行部門及びロンドン拠点にて勤務後、シティグループ証券を経て現職



上級執行役員
柴田 快

早稲田大卒。P&Gを経てクラシルへ。創業初期から営業・コーポレート等経験して現職



上級執行役員 / CPO
坪田 朋

DeNAで新規事業・デザイン組織を立ち上げ。デザインファーム「Basecamp」設立を経て現職



上級執行役員
日向 諒

AnyPay、LayerXにて取締役として従事した後、モビリティ事業会社設立を経て現職



執行役員 / CTO
大竹 雅登

慶應大在学中にクラシルを共同創業。最初のエンジニアとして「クラシル」を開発

オーバーハング懸念を払拭すべくVC／事業会社／エンジェル投資家による売却及び長期ロックアップを実現。

IPO前

保有比率（％）

#	株主名	顕在株	潜在株込み*2
1	LINEヤフーグループ	50.1%	45.8%
2	堀江 裕介	24.0%	23.6%
3	VC／事業会社／ エンジェル投資家	25.9%	23.7%
4	IPO以降の参画投資家	-	-
5	その他SO保有者	-	6.9%

25/3末時点

保有比率（％）

顕在株	潜在株込み*2	ロックアップ期間
56.3%	51.5%	360日
17.6%	17.7%	360日
1.5%	1.4%	360日
24.6%	22.5%	-
-	6.9%	

*1 2024年11月21日時点の保有株式数及び発行済株式数を基に試算。LINEヤフーグループの保有比率はLINEヤフー株式会社及びYJ2号投資事業組合の保有株式を含む。

*2 権利行使期日確定前分を含むフルダイリューションベースにて計算。尚、堀江氏はストックオプション70万株を保有

クラシルの認知度やクラシル・クラシルリワードのユーザー基盤を活かした事業領域の展開により、クラシル経済圏を拡大。

クラシル 経済圏を拡大



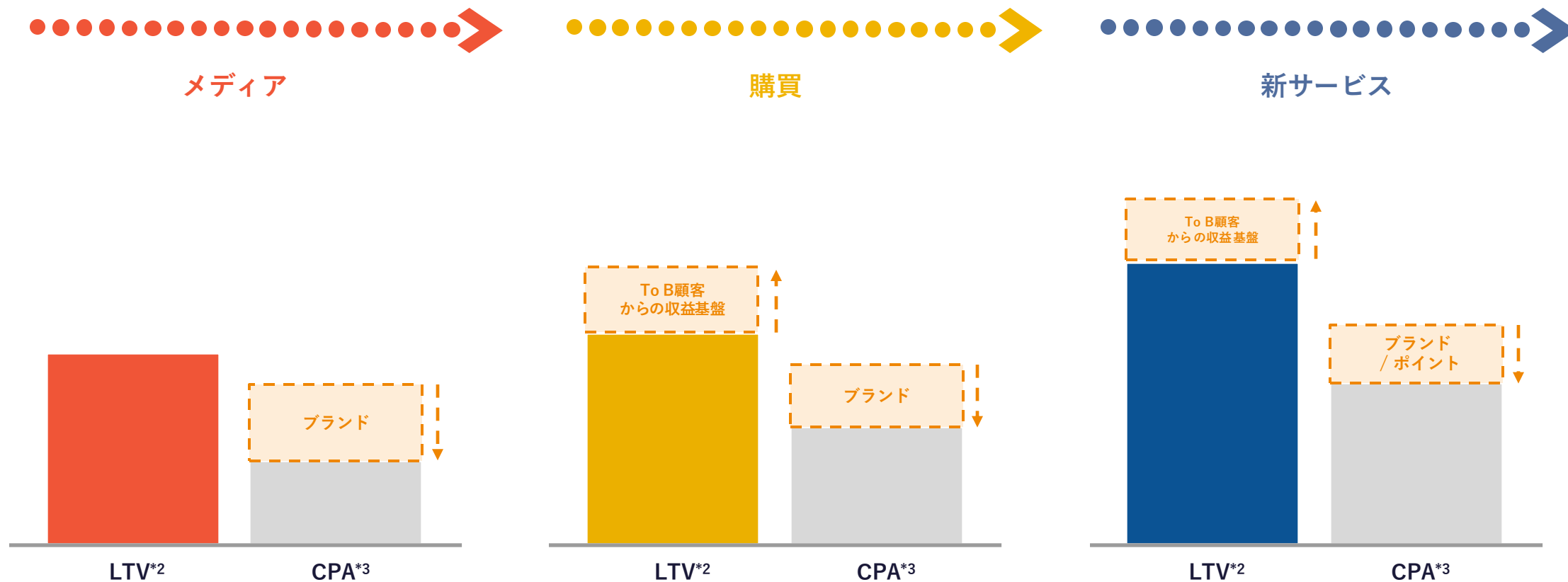
*1 各FinTech領域は構想段階における拡張予定の領域であり、現時点の具体的な取組みを指すものではない。

*2 調査委託先：マクロミル。「あなたが知っている料理レシピ動画サイト・アプリ」に対する回答（調査対象者：回答者数1,036名のうち20-50歳の男女759名（男性377名、女性382名）／調査実施期間：2024年3月29日-30日／調査方法：インターネットリサーチ）

*3 FY26/31Qのクラシル及びクラシルリワード関連のAPP MAU合算値の期間平均（クラシル、クラシルリワードともに過去30日間にアプリを起動したユニークユーザー数の合計）

強固な既存アセットを活かした連続的な事業展開

強固なブランド・ポイント基盤を活用することで、ユーザー数を拡大することができ、さらに小売企業やブランド企業などの既存toB顧客へのサービスクロスセルにより、ユーザー当たりのLTVが高い状況。

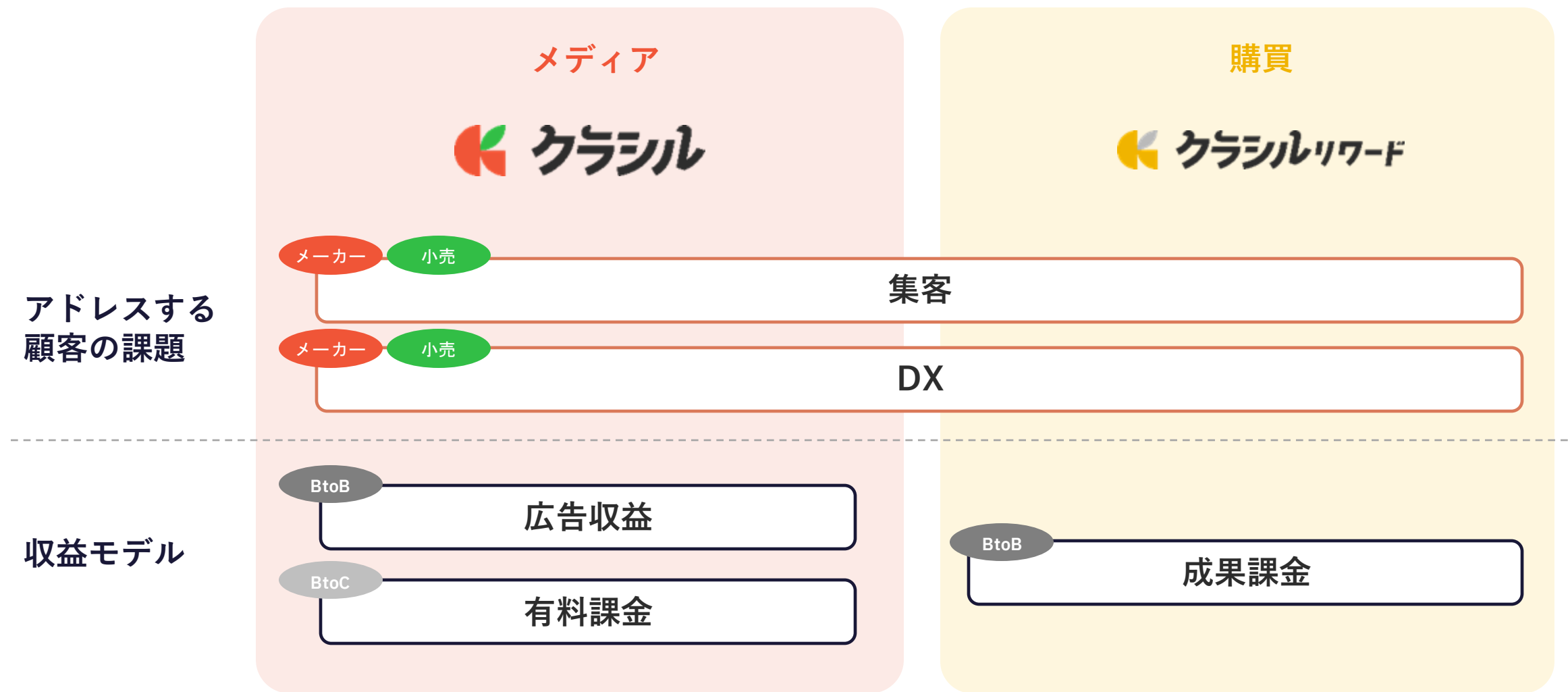


*1 当社における各領域を通じた収益性向上及び、クライアントにおけるマーケティング費用効率化に関するイメージ図

*2 Life Time Value（顧客生涯価値）の略称 *3 Cost Per Acquisition（顧客獲得単価）の略称

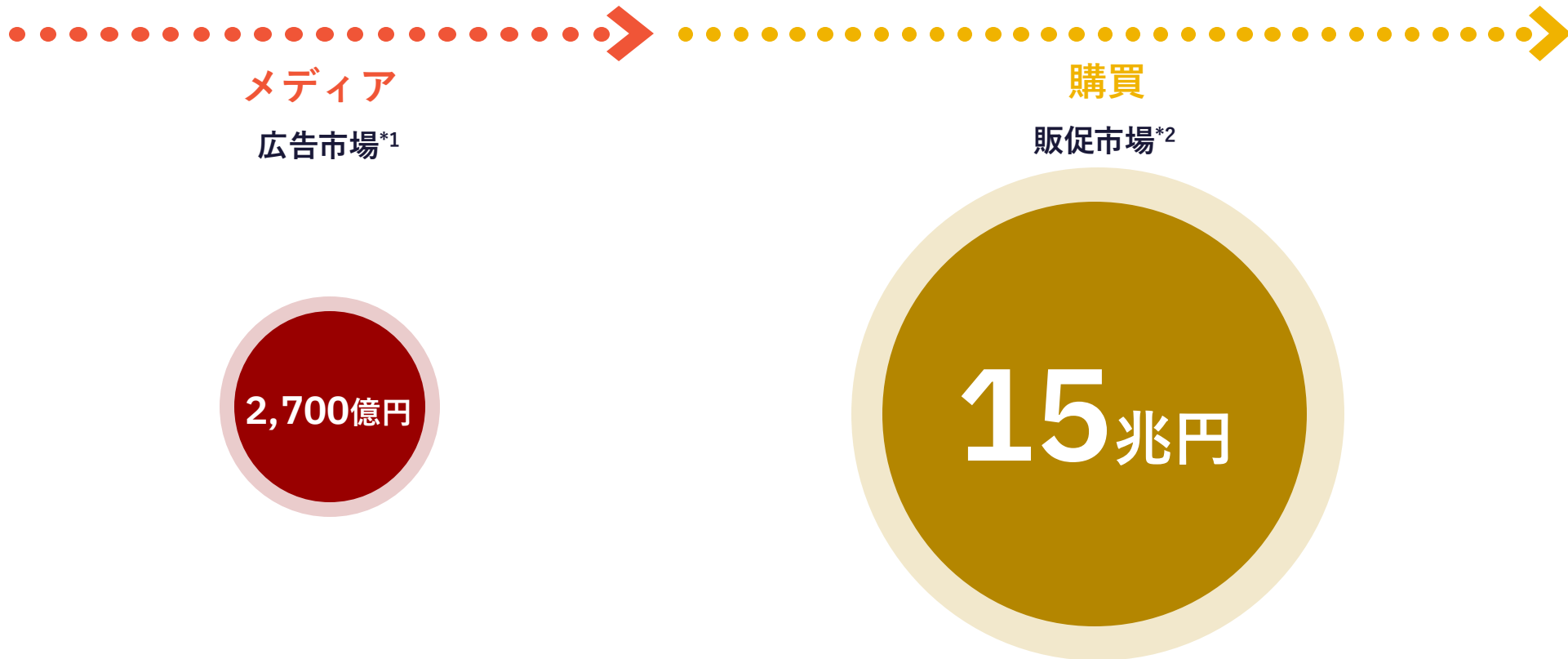
クラシルが解決する課題と収益モデル

メディア領域で確立されたユーザー基盤を活かし、市場成長期待の高い購買領域へ事業を拡張。



広大な販促市場への領域拡大

クラシル経済圏を通じた競争優位性を活かしながら、メディア（認知）から広大なTAMを有する購買へ領域を拡大。



*1 食料品・飲料・嗜好品におけるインターネット予約型広告及びインターネット運用型広告における市場規模を試算し合算値を記載。（インターネット予約型広告市場規模：予約型広告における動画広告実績値（2023年）（CARTA COMMUNICATIONS/電通/電通デジタル/セブテニ「2023年 日本の広告費 インターネット広告媒体費 詳細分析」に基づく）×食品・飲料・嗜好品における業種別広告比率（右記数値を参照し20.0%と仮定（18.0%：マスコミ4媒体における食品・飲料・嗜好品広告比率（2023年）（電通「2023年 日本の広告費」業種別広告費」に基づく）、20.6%：CARTA HOLDINGSデジタルマーケティング事業における食品・飲料・嗜好品取扱高比率（23/12期）（CARTA HOLDINGS 2023年12月期通期決算説明資料に基づく））＋インターネット運用型広告市場規模：運用型広告におけるディスプレイ・動画広告実績値（2023年）×食品・飲料・嗜好品における業種別広告比率（上記同様））

*2 株式会社レイヤーズ・コンサルティングの開示情報における2020年の推定値に基づく

広大な販促市場への領域拡大

販促市場においてクラシルリワードは様々な優位性を有する。

買い物ユーザー数

国内最大規模



MAU^{*1} 3,700万人

SNS^{*2} 1,200万人

認知度^{*3} 58.1% / 女性は76.4%

オフラインの各種データ

1stPartyデータ

デモグラ



チラシ閲覧データ



購買データ



移動データ



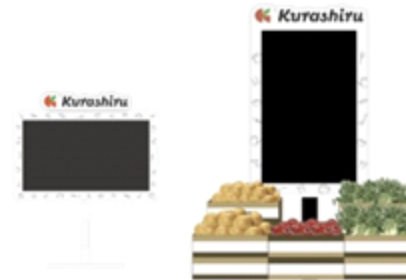
レシピ閲覧データ



店頭サイネージ



4,000店舗 / 11,000台^{*4}



トップ企業との関係値

小売/メーカー/卸

食品・飲食ナショナル
ブランドカバー率^{*5}

93%

全国小売提携店舗数^{*6}

約3.3万店舗

^{*1} FY26/3 2Qのクラシル及びクラシルリワードにおけるMAU合算値の期間平均（クラシル、クラシルリワードいずれも過去30日間にWebへアクセス又はアプリを起動したユニークユーザー数の合計）。なお、クラシルとクラシルリワード及びWebとAPPの重複ユーザーの排除はしていません。^{*2} 2025年9月時点のFacebook / X / TikTok / Instagram / YouTube / LINE / LINE Newsにおけるクラシル及びクラシルリワードのSNS公式アカウントのフォロワー数単純合計^{*3} 調査委託先：マクロミル。「あなたが知っている料理レシピ動画サイト・アプリ」に対する回答（調査対象者：回答者数1,036名のうち20-50歳の男女759名（男性377名、女性382名）／調査実施期間：2024年3月29日-30日／調査方法：インターネットリサーチ）^{*4} 2025年9月時点の店頭サイネージの設置店舗数及び台数^{*5} 日本取引所グループ業種別分類「食料品」に含まれる国内企業の直近年度売上高上位30社のうちこれまで当社と取引（受注）実績が有る企業数（28社）の比率。提出日現在、レシピを使ったタイアップ広告及びレシピチャレにおいて、食品・飲料ナショナルブランド企業を中心とした営業活動を行っております。^{*6} 2025年9月時点のスーパー・ドラッグストア等の全国小売提携店舗数

(ご参考) FY26/3期の事業方針

ガイダンス

売上高 **171.4**億円
(YoY +**30.8%**)

Non-GAAP営業利益* **35.2**億円
(YoY +**25.3%**)

方針・主な施策

購買領域の成長をより加速させる

メディア



方針

- ・ クラシルリワードのADNW事業が牽引することでPV数は着実に増加する見込み
- ・ 単価については、3rd Partyディスプレイ広告に対する市場影響を保守的に織り込む

購買



方針

- ・ オンラインショッピングは、ユーザー体験の磨き込みのためのECの価格比較機能なども実装予定
- ・ オフラインショッピングは、小売企業のアカウント増加による事業拡張に注力
- ・ クラシルリワードのMAU増加に加え他社サービスとの連携も進める

その他



方針

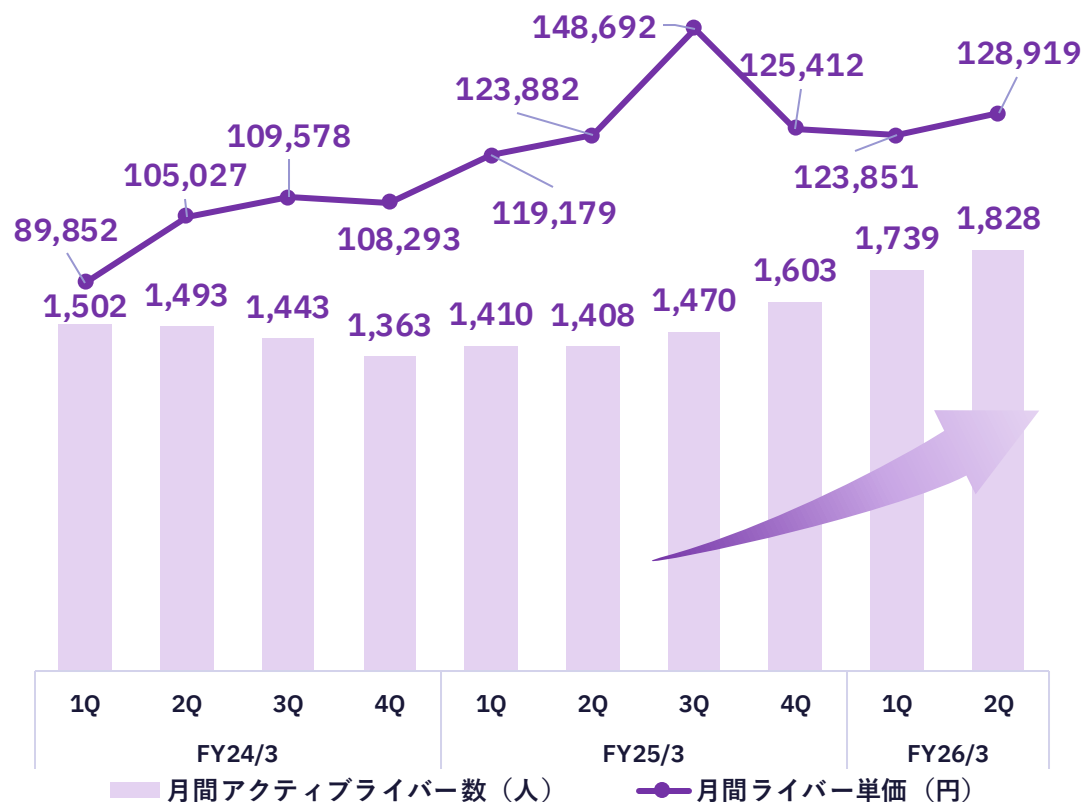
- ・ 昨年度と同様に高収益ライバーの育成に注力
- ・ ライブ配信支援サービスのみならず、ライブコマース支援サービスの提供を開始

* Non-GAAP営業利益とは買収によるのれん償却費及び無形資産償却費を営業利益に加算した金額（詳細はP45参照）

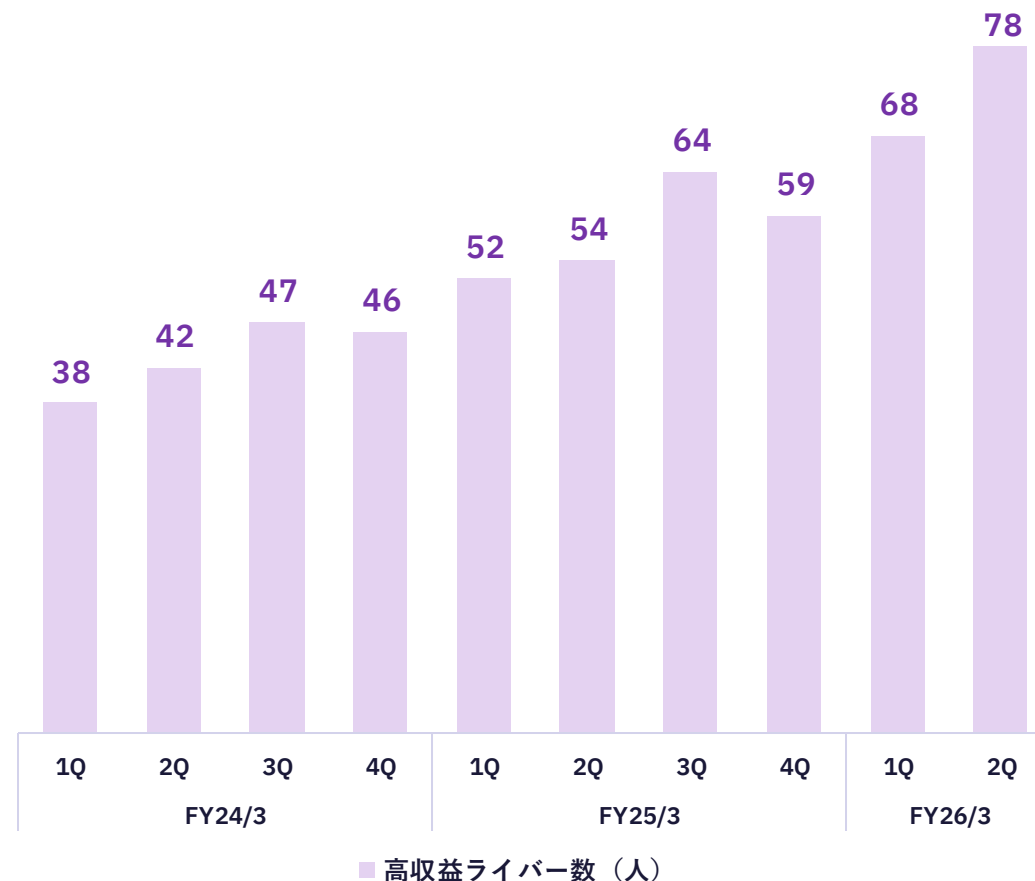
LIVEwithにおけるライバー数／単価推移

直近四半期においてもアクティブライバー数は堅調に成長し、月間ライバー単価についても増加。

月間アクティブライバー数^{*1}（人）／月間ライバー単価（円）



高収益ライバー^{*2}（人）



^{*1} 各四半期において月に1ダイヤ・円を取得した当社所属のライバー数の期間平均値

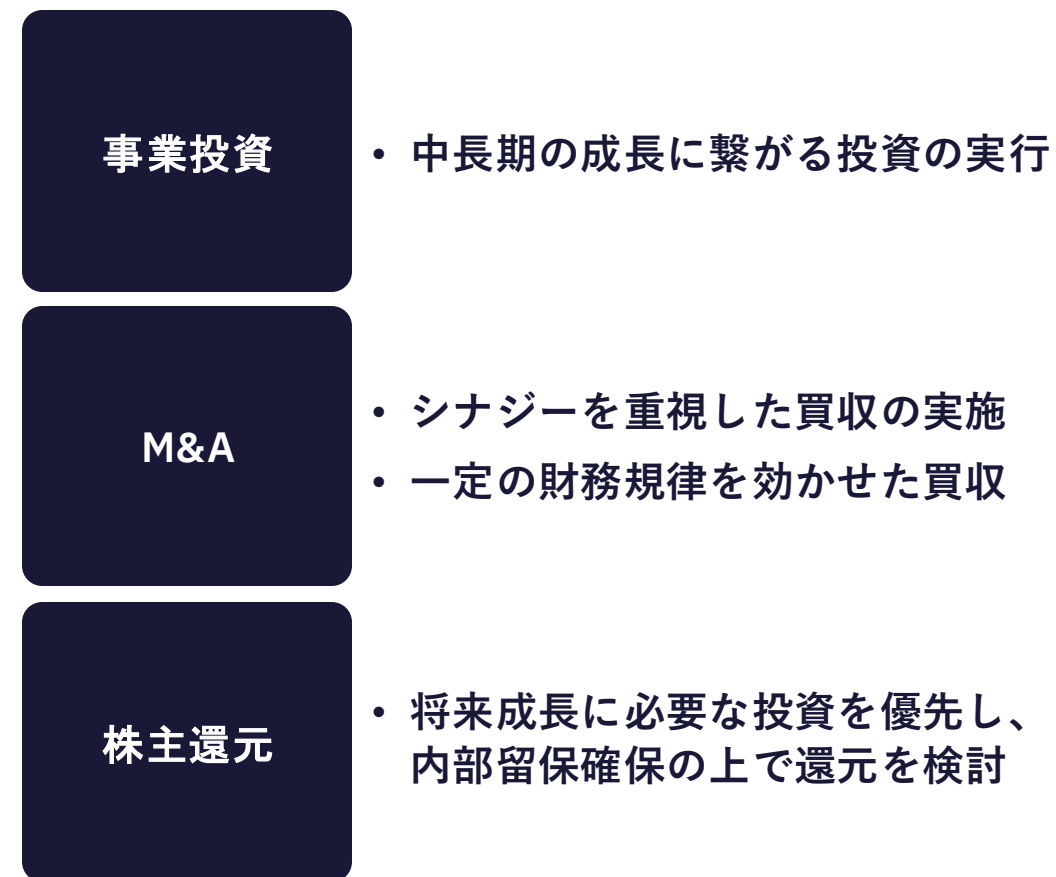
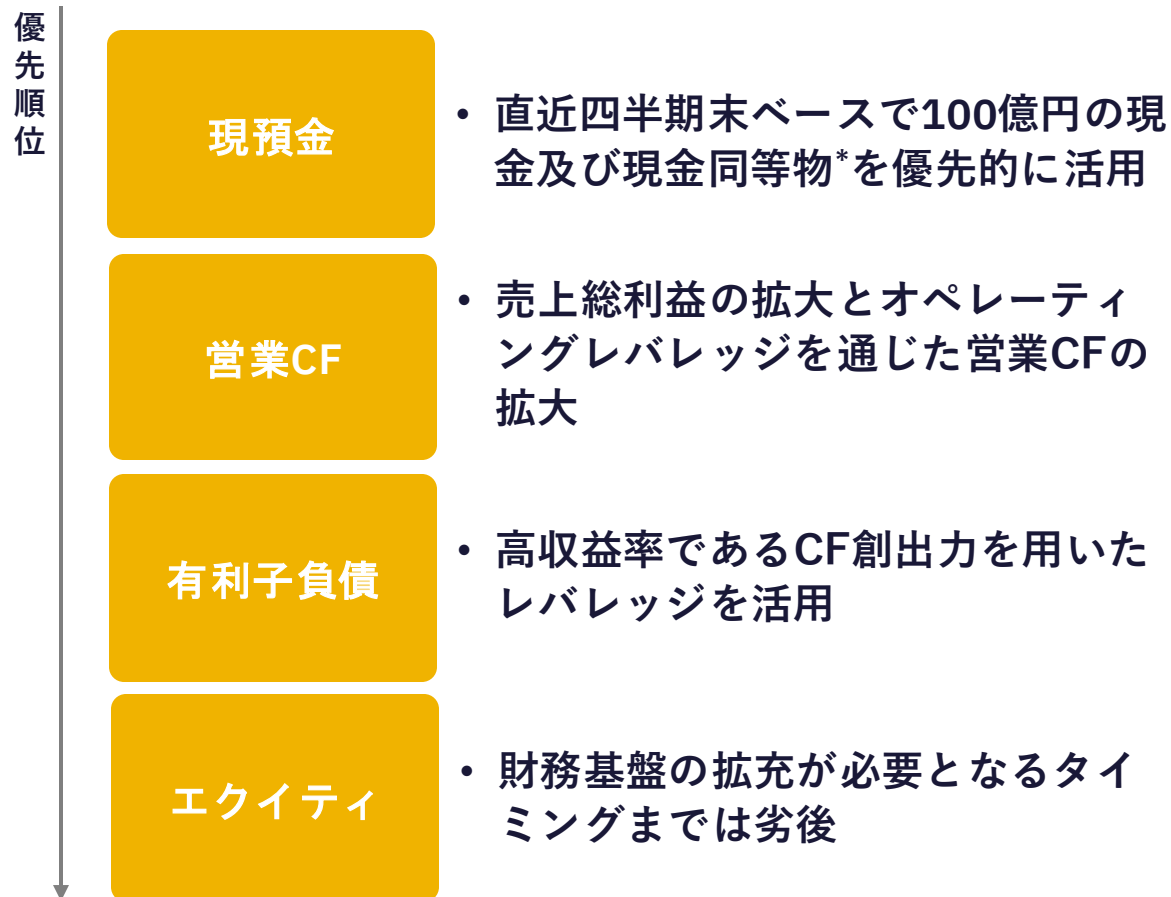
^{*2} 各四半期において150万ダイヤ・円以上（Pococha・IRIAM：150万ダイヤ以上／TikTok：150万円以上）を取得したライバーの人数。

(ご参考) キャッシュアロケーションに関する方針

中長期の価値創造に向け、手許現預金及び営業CFに関して事業投資やM&Aへの投資を優先して実行する方針。

資金調達源

キャッシュアロケーション



* 「現金及び預金」 70.4億円と「有価証券」(流動資産) 29.9億円の合計。「有価証券」(流動資産) 29.9億円は全て満期3ヶ月の商業・ペーパーによる短期運用分。(詳細はP.46を参照)

これまでの 買収実績

過去4件の買収を実施

- PMIに関してもKPIを意識した優れた業務遂行・管理などのオペレーショナルエクセレンスにより、事業成長を実現

具体的な対象領域

販促領域におけるクロスセルを期待できる企業

- リテール/メーカー向けの販促支援領域における機能拡張や商材拡張に資する企業などの買収

その他既存領域の強化に資する企業

- シナジーが見出しやすいクリエイターマネジメント領域における買収

買収時の判断基準

明確なシナジーが存在するか

- 明確なトップラインシナジーやコストシナジーが期待できる企業

免責事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。

これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。

さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

実際の結果は環境の変化等により、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新・改訂を行う義務を負うものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

**2026年3月期第3四半期決算発表は、
2026年2月3日（火）15時半以降を予定しております。**

お問い合わせ先

ir-contact@kurashiru.co.jp

